

# 茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）

## 実施状況報告書

令和5年(2023年)10月

茨 木 市

# 目 次

<b>I</b>	<b>概要</b> .....	1
1	趣旨 .....	1
2	P D C A サイクルとは .....	1
3	P D C A サイクル実施の流れ .....	2
<b>II</b>	<b>第4期計画等施策(事業)評価シート</b> .....	3
I	ライフステージごとの施策(事業) .....	3
	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 .....	3
	◇妊娠・出産期からの切れ目のない支援(いばらき版ネウボラ) .....	13
	◇子どもの健康保持・増進 .....	14
	◇就学前教育・保育体制の充実 .....	23
	◇子育て支援サービスの充実 .....	34
	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援 .....	48
	◇児童・生徒の健康への支援 .....	53
	◇特色ある学校教育の充実 .....	58
	◇様々な悩みに対応する体制の充実 .....	64
	◇学校・地域・家庭の連携 .....	68
	◇安全で安心な居場所づくり .....	76
	◇若者への自立をめざした支援 .....	84
	◇就労の支援 .....	86
	◇青少年の健全育成 .....	88
II	社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり .....	94
	◇ひとり親家庭への支援 .....	94
	◇障害児の健やかな育ちの支援 .....	108
	◇児童虐待防止対策の強化 .....	121
	◇外国人や社会的養護にある児童など配慮が必要な子ども・家庭への支援 .....	123
III	仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり .....	124
	◇意識啓発 .....	124
	◇職場環境の改善に向けた支援 .....	129
IV	社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり .....	131
	◇子どもを産む・育てるための意識啓発 .....	131
	◇支援ネットワークの充実 .....	134
	◇安全で安心な育成環境 .....	139
V	子どもの貧困対策 .....	146

# I 概要

## 1 趣旨

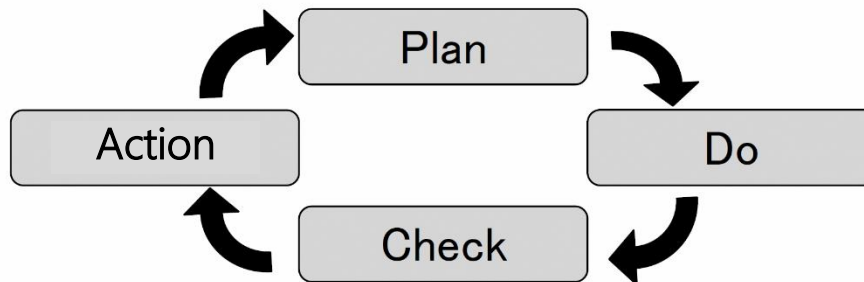
この報告書は、「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」（令和2（2020）年3月、以下「第4期計画」という。）における評価と課題をふまえ、「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」（令和2（2020）年3月策定、以下「第4期計画」という。）に位置付けた諸施策（事業）について令和4（2022）年度実績を分析及び評価した結果をとりまとめたものです。

## 2 PDCAサイクルとは

「PDCAサイクル」とは、さまざまな分野・領域において品質改善や業務改善に向けて、広く活用されているマネジメント手法で、「計画（Plan）」「実行（Do）」「評価（Check）」「改善（Action）」のプロセスを順に実施していくものです。

計画を立て、それを実行し、結果を評価した後、改善して次のステップへと繋げていく過程は、日常業務を進めていくうえで、ひいては業務や市民サービスの質を高めるうえで大変役立ちます。

### ■ PDCAサイクルのイメージ



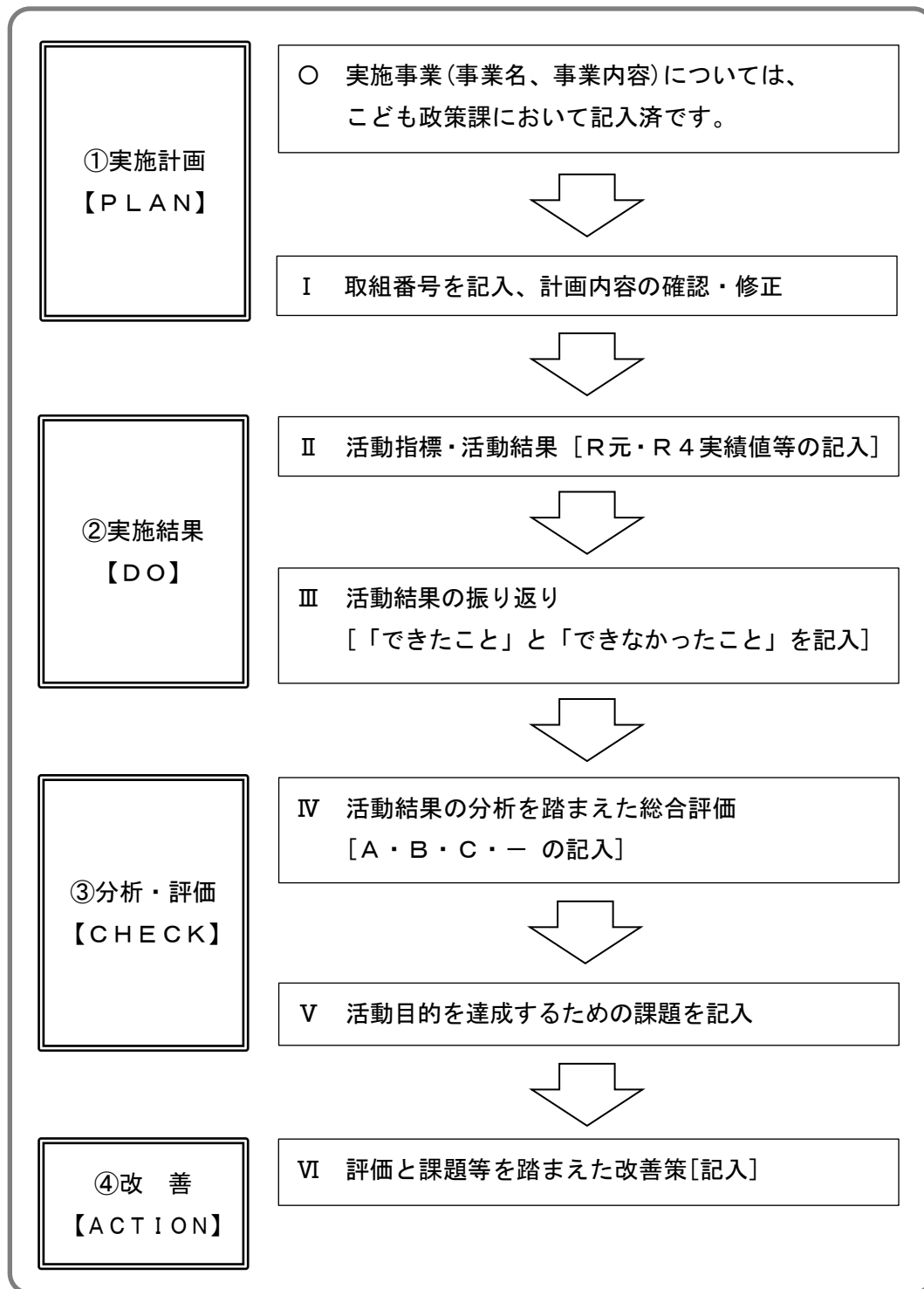
計画（Plan）	目標を設定し、目標達成に向けた活動を立案する
実行（Do）	計画に基づき活動を実行する
評価（Check）	活動を実施した結果を把握・分析し、改善すべき課題等を考察する（学ぶ）
改善（Action）	考察に基づき、計画の目標、活動などを改善に向けて見直す

### 3. P D C Aサイクル実施の流れ

第4期計画に基づく施策（事業）を評価するためのP D C Aサイクルに沿った作業手順は、次のページに示すとおりです。

作業は「第4期計画 施策(事業)評価シート」の作成により行います。

#### ■ 第4期計画 施策(事業)評価シート作成作業の流れ（イメージ）



3ページから、関係課から提出された「第4期計画等施策（事業）評価シート」を取りまとめた結果を示します。

## II 第4期計画等施策（事業）評価シート

### ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ①妊娠・出産に関する相談・情報の提供

### ■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1101	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	母子健康手帳の交付、妊婦面接・相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	妊娠届出者への母子健康手帳交付時に、保健師や助産師が面接し、母子保健事業の周知、妊産婦健康診査・妊婦歯科健康診査の勧奨、妊娠初期からの健康管理についての保健指導や、出産の準備などの情報提供を行います。また、相談にも応じ、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>妊娠届出時の全数妊婦面談実施し、必要な情報の提供と支援が必要な妊婦の把握に努める。</li> <li>新型コロナウイルス流行禍でも全数妊婦面談実施できるよう体制を整える。</li> </ul>		○				

### ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
妊婦面談（H23年度中から開始）・子育てプランシート作成（H29年度開始）実績	件	2,612	2,547	2,540	2,451		策定	全妊婦
							現在	全妊婦
できたこと（達成したこと）	妊娠届出時の混雑緩和や待ち時間の解消のために、妊娠届出の予約制を導入し、アンケートもオンラインでの回答とした。また、オンライン面談を活用し、体調不良や就労等で代理届であった妊婦についても、後日妊婦本人と面談し、相談に応じることができた。							
できなかったこと（達成できなかったこと）	特になし							

### ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	オンラインを活用することで、来所が困難な妊婦とも対面での面談を実施することができるようになったため。
A		
活動目的を達成するための課題	就労中の妊婦の場合、平日日中の面談は調整が難しいこともある。就労中の妊婦も気軽に相談できるよう、体制を検討していく必要がある。	

### ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	R5年度中に新施設への移転もあることから、就労中の妊婦のニーズを把握し、全妊婦が面談しやすい体制を検討していく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ①妊娠・出産に関する相談・情報の提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1102	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	両親教室（パパ&ママクラス）	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	妊娠中から出産や育児に関する情報提供、相談支援体制の充実を図るため、妊婦やそのパートナー等が参加する講座を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和3・4年度はオンライン講座での講義・育児指導を行っていたが、令和5年度以降は、新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら参加型に戻して実施する。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
① 親教室の実施回数	回	6	3	6	12		策定	増やす
							現在	増やす
② 講者人数	人	983	131	305	457		策定	増やす
							現在	増やす
③ (パートナー)参加率	%	97.2	100	75.3	85.0		策定	100
							現在	100
できたこと(達成したこと)	オンラインで実施することにより、新型コロナウイルス感染症流行下でも安定した事業実施ができた。また、産後のこころとからだについてや、赤ちゃんとの生活についてを講義内容に取り入れたことで、家族で育児に取り組む動機付が行えた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	オンライン開催のため、沐浴等の育児手技について直接的指導ができなかった。また、オンラインでの参加者交流では会話が続き、十分な交流ができなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	事後アンケートでは「とてもよかった」「よかった」の割合が毎回8割を超えていたものの、参加型での交流や育児手技指導を希望される意見が多く見られたため。
B		
活動目的を達成するための課題	オンラインでは活発な意見交換が行われにくく、参加者間の交流が難しい。また、育児手技指導については、動画配信では細やかな対応が困難なため、令和5年度以降は新型コロナウイルス感染症の動向をみながら、参加型の実施を行う。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	参加型に戻し、直接的な育児手技の指導・対面交流ができるようにする。平日開催だけでなく、休日開催日を設け、パートナー参加率を高める。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ①妊娠・出産に関する相談・情報の提供

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1103	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	保健相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	家庭環境の問題や育児困難等、相談内容が複雑化・困難化していることを踏まえ、関係機関とのさらなる連携による支援体制の充実を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区活動や乳幼児健診会場等において、オンライン相談の周知を図る。</li> <li>・関係機関との連携を密に行う。</li> </ul>		○	○			

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
① 面接指導（延人数）	人	539	696	742	1,316		策定	増やす
							現在	増やす
② 電話指導（延人数）	人	7,449	7,252	4,974	6,592		策定	増やす
							現在	増やす
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、面接・電話指導数を増やすことができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	オンラインの相談者数が前年度と比べて大きく伸びなかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	面接・電話指導数は増加したが、オンライン相談数が伸び悩んでいるため。
B		
活動目的を達成するための課題	相談体制の周知、関係機関との連携による支援体制の充実	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援依頼のあったケースについては、引き続き関係機関と連携しながら適切な支援に努める。オンライン相談の周知を積極的に行い、面接に抵抗のある住民にも気軽に相談してもらえように取り組む。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ①妊娠・出産に関する相談・情報の提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1104	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	訪問指導	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	妊産婦や乳幼児のいる家庭に、保健師・助産師等が訪問し、育児相談やつどいの広場等の情報提供等を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦面談等において、保健師や助産師等の訪問に関する周知を図る。</li> <li>・関係機関との連携を密に行う。</li> </ul>		○	○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
訪問指導実施数（延人数）	人	5,198	2,347	2,429	3,221		策定	増やす
							現在	増やす
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染状況が落ち着く中、訪問によって直接顔を合わせながらの支援が行うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	訪問指導数が増加したため。
A		
活動目的を達成するための課題	顕在化しているケースのみならず、問題が潜在しているケースにも支援を行き渡らせることが必要。訪問について周知し、相談しやすい環境を整える。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援依頼のあったケースについては、引き続き関係機関と連携しながら適切な支援に努める。問題が潜在しているケースについては、妊娠届出、乳幼児健診など、保健師等が全数面談できる機会にアセスメントし、支援につなぐ。
------------------------------------	---



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1105	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	妊婦健康診査	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	妊婦及び胎児の健康保持を図るとともに、妊娠状態を定期的に確認します。 また、医療機関と連携し、保健指導や産後の育児不安の軽減等を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診券交付時に妊婦健康診査受診券について説明し、妊婦健康診査の助成や継続的な受診の必要性について説明する。</li> <li>関係機関との連携を密に行う。</li> </ul>		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
妊婦健康診査費用助成件数	件	29,662	28,339	28,564	27,300		策定	増やす
							現在	増やす
できたこと(達成したこと)	妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産できる環境整備ができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産できる環境整備ができているため。
A		
活動目的を達成するための課題	妊婦健康診査を定期的に受診することができるよう、妊婦健康診査の重要性について普及・啓発を行う。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	妊娠届出時から妊婦健康診査の重要性について普及・啓発を行うことや、医療機関（産科）等との連携を図り妊婦の状況に併せた支援を行い、妊婦健康診査が定期的に受診できるよう支援を行う。また、多胎妊婦への受診券の追加交付を次年度に行い、支援の充実を図る。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1106	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	妊婦歯科健康診査	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	妊婦に対して、妊娠中の口腔管理を通して、安全・安心な出産をサポートします。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	妊娠届出時に妊婦歯科健康診査受診券について説明し、妊婦歯科健康診査の助成や受診の必要性について説明する。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R 元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
① 受診者数（延べ人数）	人	984	894	906	894		策定	増やす
							現在	増やす
② 受診率	%	40.9	37.8	35.6	36.5		策定	増やす
							現在	増やす
できたこと(達成したこと)	昨年度より受診率を上げることができ、妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産出来る環境整備が出来た。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産出来る環境整備が出来たため。
A		
活動目的を達成するための課題	歯周病の重症化により、早産や低体重児出産の頻度が高まる可能性があることから、妊婦歯科健康診査の重要性について母子保健事業や産科・歯科医療機関を通じて普及・啓発を行う。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、妊婦歯科健康診査の大切さについて、妊婦へ周知を図っていく。
------------------------------------	------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1107	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	生活習慣病予防	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	取組番号	1-5-1					
	事業内容	妊婦とそのパートナー等に対し、自らの健康状態を理解し、将来の生活習慣病の予防や受動喫煙防止などの情報提供ならびに動機付けを行います。また、受診率の高い乳幼児健康診査の場も活用し、子育て世代に対して健康づくりに関する情報提供を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	—		○	○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
健康づくりセミナー（パパ&ママクラス）の回数、参加者数	回	6	廃止	廃止	廃止		策定	-
							現在	-
	人	983	廃止	廃止	廃止		策定	-
							現在	-
できたこと（達成したこと）	—							
できなかったこと（達成できなかったこと）	—							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	—
—		
活動目的を達成するための課題	—	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	—
------------------------------------	---

※新型コロナウイルス感染予防のため、健康づくりセミナー（パパ&ママクラス）は廃止。

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1108	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	産前・産後ホームヘルパー派遣	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	産前・産後、体調不良のため家事や育児が困難な家庭や、多胎児を出産した家庭等にホームヘルパーを派遣します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスを必要とする家庭等にホームヘルパーを派遣し、産前・産後の育児負担の軽減を図ります。</li> <li>・申請件数の増に備え、新規事業者の拡充に努めます。</li> </ul>		○				★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
委託事業所数	か所	28	23	27	28		策定	30
							現在	30
利用世帯実数	世帯	79	49	84	81		策定	90
							現在	30
できたこと(達成したこと)	利用世帯数に大きな増減はないが、利用時間数が増加しており、利用者の育児負担軽減を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	ヘルパーの派遣を希望する利用者に対して、個々の希望に沿った支援ができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	今後、新規利用者や再利用者の増加が見込まれるため、今後もニーズに寄り添った支援ができるよう、委託事業所の拡充を図る必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	新たな委託事業者の確保に努める。
------------------------------------	------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1109	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	入院出産の助成	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	誰もが子どもを安心して産めるように、経済的な理由により入院助産できない妊産婦に対し、入院助産に要する費用を一部助成します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	経済的な理由により入院助産できない妊産婦に対し、関係機関と連携し、適切にサービス提供する。		○				★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
助成対象者数	人	5	4	7	6		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	関係機関と連携し、助成が必要となる市民に対し、適切にサービス提供することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	経済的な理由により不安を抱える妊産婦に対し、安心して入院助産を受けていただくことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、経済的な理由により入院助産できない妊産婦に対し、関係機関と連携し、適切にサービスを提供する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1110	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	産婦健康診査	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	出産後間もない時期にある産婦の心身の健康保持・増進を図るため、おおむね産後2週間、産後1か月に受診する産婦健康診査にかかる費用を助成します。 また、医療機関と連携し、育児不安の軽減等を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診券交付時に産婦健康診査受診券について説明し、産婦健康診査の助成や受診の必要性について説明する。</li> <li>関係機関との連携を密に行う。</li> </ul>		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
産婦健診受診者数	人	1,075	3,560	3,649	3,928		策定	増やす
							現在	増やす
できたこと(達成したこと)	産婦健康診査の結果から産後早期から医療機関と連携を図ることができ、また産婦への早期支援に繋げることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	産婦健康診査結果より支援が必要な産婦について医療機関より連絡を受け、早期に支援することができているため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	継続して医療機関と連携を図り、支援が必要な産婦の早期支援に努める。
------------------------------------	-----------------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊娠・出産期からの切れ目のない支援（いばらき版ネウボラ）

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1111	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育て世代包括支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	母子保健事業と子育て支援事業の一体的な提供により、子育て支援に関するワンストップサービスの提供体制の充実を図り、関係機関と連携し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠届出時の全数妊婦面談実施し、必要な情報の提供と支援が必要な妊婦の把握に努める。</li> <li>・新型コロナウイルス流行禍でも全数妊婦面談実施できるよう体制を整える。</li> <li>・多胎妊産婦に対し、妊娠中から産後にかけての継続支援を行う。</li> </ul>		○	○			★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
妊婦面談・子育てプランシート作成 (H29年度開始)実績	件	2,612	2,547	2,540	2,451		策定	全妊婦
							現在	全妊婦
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調不良や就労等で妊娠届出時、妊婦本人との面談ができなかった場合もオンライン面談を活用し、後日妊婦本人と面談を行うことができた。</li> <li>・伴走型出産・子育て応援事業とも連携し、妊娠8か月頃の面談も希望者に行うことができた。</li> <li>・多胎妊産婦に対しても、妊娠中から産後にかけて、利用者支援事業（基本型）とともに母子保健と子育て支援の両分野からニーズに応じた継続支援を実施することができた。</li> </ul>							
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインを活用し、来所が難しい妊婦とも対面での面談を実施し、相談に応じることができたため。</li> <li>・多胎妊産婦に対して、オンライン上で交流会を開催し、妊婦同士の交流がはかれた。また、妊娠中から継続的に支援することで、育児不安が大きい多胎妊産婦に対して、タイムリーにニーズに応じた社会資源の情報提供や訪問等の支援をおこなうことができたため。</li> </ul>
A		
活動目的を達成するための課題	新型コロナウイルス感染症も5類へ移行したことから、多胎妊産婦のニーズを把握し、引き続き支援を充実させる必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	利用者支援事業（基本型）とともに、現行の多胎妊産婦への支援内容を評価し、多胎妊産婦のニーズに応じた、多胎妊産婦の交流の場の提供、サービス等必要な、情報提供について検討していく。また、妊娠8か月頃の妊婦に対してもニーズに応じた情報提供ができるよう検討していく。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1201	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	乳幼児健康診査	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	乳幼児期において各種健康診査を実施し、疾病や発達上の課題を早期に発見し、医療及び療育へつなげ、保護者の育児不安の解消や虐待を未然に防ぐための支援に努めます。また、未受診児の状況を把握し、必要な支援に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動 計画を簡条書 きで記述)	・子どもの健康の保持・増進のために健康診査が必要であることを保護者に理解してもらい働きかけや、受診しやすい日程調整を心掛ける。		○				

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
4か月児健康診査	%	97.1	84.0	96.5	97.7		策定	98.0
							現在	増やす
1歳8か月児健康診査	%	95.5	93.2	97.1	97.9		策定	97.0
							現在	増やす
3歳6か月児健康診査	%	95.9	91.5	93.8	93.2		策定	97.0
							現在	増やす
できたこと(達成したこと)	1歳8か月児健康診査、3歳6か月児健康診査について、対象月齢での健診案内が可能となった。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	3歳6か月児健康診査において、受診率が低下した。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	4か月児健康診査、1歳8か月児健康診査の受診率は上昇したが、3歳6か月児健康診査では受診率が低下したため。
B		
活動目的を達成するための課題	対象者が受診しやすいように、予約日時の変更に柔軟に対応する必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	各健康診査の受診率を上昇させるために、令和5年度中に、日時変更できる枠を拡大するとともに、インターネット上で簡単に日時変更が行えるようにする。
------------------------------------	---



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1202	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	歯科疾患予防	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	歯科疾患予防を図るため、幼児に対する口腔内検査、予防処置、保健指導、カリオスタット等を実施します。また、乳幼児期の発育・発達に応じた口腔保健に関する知識の普及に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	・1歳8か月児、3歳6か月児健康診査及び2歳3か月児歯科健康診査や地区活動の場において、乳幼児期の発達発育に応じて、むし歯予防や歯磨き習慣、噛むことの大切さなど、口腔機能に関する知識の普及に努める。	○					

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
2歳3か月児歯科健康診査	%	85.8	74.1	71.6	70.5		策定	増やす
							現在	増やす
2歳5か月児歯科健康診査	%	74.7	75.9	67.4	41.2		策定	増やす
							現在	増やす
できたこと(達成したこと)	乳幼児期の発育発達に応じた齲歯予防や歯みがき習慣、噛むことの大切さなど、口腔機能に関する知識の普及に努めることができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により2歳3か月児歯科健康診査の受診時期の遅れについて解消を図るため、令和4年度はフォロー健診である2歳5か月児歯科健康診査は個別医療機関での実施となったが、受診率が低下した。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	2歳5か月児歯科健康診査の個別健診化により2歳3か月児歯科健康診査の受診時期の遅れを解消することはできたが、受診率が低下したため。
B		
活動目的を達成するための課題	令和5年度はすべての歯科健診は集団健診となるため、例年の受診率の回復が見込まれる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和5年度は対象の受診時期に健診を実施することで受診率の増加を図り、乳幼児期からの歯科疾患予防に関する知識の普及とともに、歯科健診の必要性について周知、啓発に努める。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1203	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	二次健康診査（経過観察健診）	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-1					
	事業内容	一次健康診査等で発見された問題について、適切な事後指導を行うため、経過観察や相談等を実施します。 また、関係機関と連携を図りながら、医療機関や療育機関等を紹介する等、フォローアップに努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡潔書きで記述)	・幼少期からの食生活・生活習慣に関する正しい知識の普及・啓発を図る。 ・子どもの健やかな成長を支援するため、子どもの健康保持・増進への取組や健康に関する相談・情報提供に柔軟に対応できる体制の充実を図る。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
受診人数（小児）	延べ	144	108	149	206		策定	質的充実
	人数						現在	質的充実
受診人数（心理相談）	延べ	202	178	192	185		策定	質的充実
	人数						現在	質的充実
できたこと(達成したこと)	発育・発達及び疾病の二次スクリーニングとして、治療や療育等の必要性を、早期に示すことができている。また、栄養や生活習慣等必要に応じた相談・情報提供等の支援体制も図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	関係機関と連携を図りながら、継続支援体制の充実を図る必要があるため。
B		
活動目的を達成するための課題	母子保健・医療・福祉の連携と、発達支援に関する支援継続体制の充実が必要である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	関係機関と連携を図りながら、継続支援体制の充実を図る。
------------------------------------	-----------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1204	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	予防接種	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	1-5-2					
	事業内容	感染の恐れがある疾病の発生及びまん延を予防するため、予防接種を実施します。（長期療養を含む）					
計 画 内 容 （具体的な活動計画を箇条書きで記述）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の蔓延により、前年度同様接種率の減が見られるが、接種率の向上を目指すため、多様な媒体を通じた情報提供方法を検討する。</li> <li>・新たな情報提供方法について、積極的に検証し、運用へつなげる。</li> </ul>			○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
接種率(MR第2期)	%	90.4	96.2	93.8	93.7		策定	95.0
							現在	増やす
できたこと(達成したこと)	対象者へ個別の通知による接種勧奨を実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	接種率を100%に近づけること。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	95%以上の接種率を達成できなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	接種率のさらなる向上のため、接種対象者への充実した情報提供や接種勧奨の実施及びワクチン流通量の把握・対応を行うこと。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	疾病の理解やワクチン接種の必要性を幅広く周知するため、適切な情報提供の方法や媒体を検討し、運用することで接種率の向上を目指す。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担当課	医療政策課						
実施事業	事業No.	1205	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	小児救急医療体制の確保	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	1-5-3					
	事業内容	小児初期救急の広域化に伴い、3市1町（本市、高槻市、摂津市、島本町）で高槻島本夜間休日応急診療所の小児科を共同運営します。					
計画内容 （具体的な活動計画を箇条書きで記述）	引き続き、3市1町（茨木市、高槻市、摂津市、島本町）で小児初期救急の広域運営を実施し、小児救急医療体制の安定的な確保に努める。また、指定管理者である（公財）大阪府三島救急医療センターに対して、課題改善に向けた働きかけを行っていく。		○	○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
小児初期救急医療機関設置の有無	-	有	有	有	有		策定	有
							現在	有
できたこと（達成したこと）	平成25年4月に高槻・島本夜間休日応急診療所で小児救急の広域化を開始し、小児科専門医や検査機器等の集約化により安定した運営体制を確保している。また、耐震性や狭隘性の課題を解決するため、三市一町（茨木市、高槻市、摂津市、島本町）で診療所移転について調整し、新築移転が決定した。							
できなかったこと（達成できなかったこと）	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	患者数の増減が活動によるものかどうかは判断が付け難いため、評価には該当しないため。
-		
活動目的を達成するための課題	安定した小児科専門医及び小児科対応医師の確保や、検査体制を確保・維持していくこと。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、三市一町（茨木市、高槻市、摂津市、島本町）で小児初期救急の広域運営を実施し、小児救急医療体制の安定的な確保に努める。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1206	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	保育所・幼稚園における子どもの健康管理	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	子どもの健康管理については、法令に基づき保護者との連携を図りつつ、内科、歯科、耳鼻咽喉科等の健診を行い、健康及び発達状況を把握し、子どもの健やかな成長を促します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科検診</li> <li>・歯科検診</li> <li>・眼科検診</li> <li>・耳鼻科検診</li> </ul>	○					

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施園所数	箇所	20	20	20	20		策定	全施設
							現在	全施設
できたこと(達成したこと)	所属する子どもの健康面の維持増進や、治療等が必要なケースへの早期発見につなげることができた なお、内科検診106人、歯科検診209人、耳鼻科検診97人、眼科検診24人を要治療と特定し、保護者に治療等を促した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	全施設で検診を実施できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後についても根拠法令に基づいて実施していく。
------------------------------------	-------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ②食育の推進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1207	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	栄養相談	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	乳幼児期の食事と栄養等について正しい知識の普及を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症対策として乳幼児健康診査に要する時間を短縮する中での個別相談の実施。</li> <li>保健医療センターで実施している栄養相談の紹介を行う等、支援方法の案内。</li> </ul>			○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
1歳8か月児健康診査	人	270	137	172	217		策定	287
							現在	質的充実
3歳6か月児健康診査	人	99	55	99	101		策定	106
							現在	質的充実
できたこと(達成したこと)	問診や保健相談時に栄養相談の希望の有無を保護者へ確認し、希望者は相談できるように調整した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対象者の月齢が遅れていたが、現在は月齢どおり案内できているため。
B		
活動目的を達成するための課題	対象者の月齢は通常どおり案内できているが、健診日数を通常どおりに減らしていくことで、一日の受診者数が増加するため、希望者全員に案内できなくなる可能性がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和5年度も引き続き相談しやすい環境を整える。
------------------------------------	-------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ②食育の推進

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	健康づくり課						
実施事業	事業No.	1208	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	離乳食・幼児食講習会	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若 者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	乳幼児をもつ保護者に対し、離乳期や幼児期における食事の進め方、調理方法、味付け等の講習を実施します。					
計画内容 (具体的な活動 計画を簡条書 きで記述)	離乳食講習会 ごっくんクラス 離乳食講習会 かみかみクラス 幼児食講習会 ぱくぱくクラス 令和5年度12月からの実施会場移転に伴い、市民周知を強化する。						○

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ごっくんクラス参加者数	人	444	152	142	202		策定	300
							現在	250
かみかみクラス参加者数	人	222	69	74	113		策定	360
							現在	150
ぱくぱくクラス参加者数	人	138	41	46	73		策定	300
							現在	100
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により、受け入れ人数を制限していたが、令和4年度から徐々に増やすことができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	一時保育を利用した講習会の開催を通年行うことができなかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	感染症対策のため定員を制限したことにより、乳幼児をもつ市民に対して十分な情報を提供できなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回の講習会での受け入れ人数の増加</li> <li>・十分なスペースを確保できる実施場所の確保</li> <li>・子どもの保育場所の確保</li> </ul>	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和5年度からは1部屋で実施していた各講習会を2部屋で実施することにより、受け入れ人数を増やす試みを行う。また令和5年度12月からの実施会場移転に伴う周知を増やす。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ②食育の推進

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課							
実施事業	事業No.	1209	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ・バランス 貧困計画	
	事業名	幼稚園・保育所における食育	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期		
	取組番号	2-1-3						
	事業内容	食育教材による食指導や、家庭への啓発文、取組の紹介により家庭での食生活に参考となる情報提供を行うなどの取組により、子どもや保護者の食に対する姿勢等から興味や関心を育てます。						
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菜園活動</li> <li>・食育教材による食指導</li> <li>・家庭への啓発文送付</li> <li>・クッキング活動</li> </ul>							

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施園所数	箇所	13	13	20	20		策定	全施設
							現在	全施設
できたこと(達成したこと)	菜園活動、クッキング活動などの施設内での取組を通じて、子どもの食に対する興味や関心を育てることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	こどもが実際に体験する食育活動は毎月数回以上の実施の機会を設けることができているが、保護者への食育指導は月に一度の定期的な啓発文の周知のみとなっており、家庭への働きかけの機会はまだまだ少ない現状。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	菜園活動やクッキング活動の回数は、コロナ禍で実施を控えていた年に比べて活発になったが、保護者への食育指導の回数はまだ多くないため。
B		
活動目的を達成するための課題	親子共に食への興味・関心を養うために、感染症予防に留意しつつ、教材等を利用した食育指導の機会を増やしていく必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	現場教諭・保育士、給食調理従事者、課栄養士が連携をとり、食育活動実施のタイミングに合わせて、保護者への食育指導(対面指導や啓発文配布等)も同時に実施する。普段は登降園(所)の時間しか対面の機会がない保護者に対して、積極的に施設での活動を呼びかけることで、食に関する指導・教育の場を増やしていく。
------------------------------------	---



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	保育幼稚園総務課						
実 施 事 業	事業No.	1210	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	「個」を大切に作る幼稚園教育	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	「茨木市人権教育推進プラン」に基づき、一人一人の人格が尊重される集団づくりを通して幼児の成長発達に即した教育を推進します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	研修を実施し、職員の知識・技能の向上を図る。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
夏季人権研修受講	回	1	1	1	1		策定	1
							現在	1
冬季人権研修受講	回	1	1	1	1		策定	1
							現在	1
できたこと(達成したこと)	実践事例の発表や活発な意見交流を通して教職員の知識の習得・技能の向上につながり、子ども一人ひとりの人権を大切に教育の推進に寄与することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	なし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	教職員の知識の習得、自己啓発に努め、子ども一人ひとりの人権を大切に教育を行うことができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	大阪府が作成した人権基礎教育指導事例集を園内研修等で十分に活用できなかった。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、教職員の知識の習得、自己啓発に努め、子ども一人ひとりの人権を大切に教育を推進していく。また、その際には人権基礎教育指導事例集の活用を促していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	保育幼稚園総務課						
実 施 事 業	事業No.	1211	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	「個」を大切に作る保育	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	「茨木市人権保育カリキュラム」に基づき、子どもの豊かな感性と創造力を養うことができる環境に配慮するとともに、子どもの発育について「個」を尊重した保育を展開します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	研修を実施し、職員の知識・技能の向上を図る。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
人権保育研修実施	回	6	3	1	3		策定	3
							現在	3
できたこと(達成したこと)	過去の研修受講者のアンケート内容を踏まえ、研修内容を検討し実施できた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	各回とも集合研修で実施をしたが、新型コロナウイルス感染対策のため、研修中のグループワーク等は極力控えての実施となった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	職員の知識の取得や自己啓発に努め、個を大切に作った保育を実践できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	研修が同じ内容に偏らないよう、研修内容を精査していく必要がある。また、感染対策に留意しつつ、研修中におけるグループワークを実施するなど、研修の実施方法について検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	研修の内容及び実施方法について検討し、職員の質の向上につなげていく。
------------------------------------	------------------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1212	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	公立保育所の機能と役割の強化	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	公立保育所の機能と役割を強化し、地域の子育て家庭支援の充実や、圏域5ブロックでの拠点として、教育・保育施設等の交流や連携を図ります。 また、小規模保育事業所等との連携確保に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭開放の実施</li> <li>・利用者支援事業（相談）の実施</li> <li>・拠点事業（小規模保育事業所等との連携）の実施</li> </ul>						

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ともだちひろば（園庭開放）	件	183	117	114	197		策定	200
							現在	197
利用者支援事業 相談件数	件	963	500	179	385		策定	500
							現在	385
できたこと(達成したこと)	園庭開放により、子どもや保護者の居場所づくりに努め、子育て支援を図ることができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染対策のため、年度途中まで予約制で実施していた事もあり、昨年度と比較すると件数は増加したが、目標までは到達しなかった。また、親子のふれあいはできたが、他の親子とふれあうまではできなかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	園庭開放により、子どもや保護者の居場所づくりに努め、子育て支援を図ることができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	感染を心配している方でも参加できるようにリモートで相談できるように準備を進めたが、利用にはつながらなかった。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	園庭開放時に相談が多いことから、予約なしでも参加可能にするなど、より多くの方が参加できるように工夫する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	保育幼稚園総務課						
実 施 事 業	事業No.	1213	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	認定こども園の普及	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	保育所・幼稚園の特長をあわせ持つ認定こども園の普及に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	認定こども園への移行にあたっての事業者の課題を踏まえ、事業者と調整しながら、環境整備などの課題解決に向けた支援を行う。	○					

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
認定こども園化数	園	0	1	1	1		策定	8
							現在	3
できたこと(達成したこと)	幼稚園1園が認定こども園へ移行できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	なし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	計画どおり認定こども園への移行が進んでいるため。
B		
活動目的を達成するための課題	待機児童対策の側面では、幼稚園から認定こども園への移行が重要となるが、事業者の意向によるところが大きい。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	認定こども園移行のメリットを説明するとともに、事業者が移行を希望する場合は、移行にかかる事務的手続きがスムーズになるよう相談・支援を行う。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課、学校教育推進課						
実施事業	事業No.	1214	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	小・中学校への円滑な移行のための保・幼・小・中の連携	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	幼児期の教育・保育と小学校以降の教育との円滑な移行、並びに子どものライフステージの各段階で生じる壁の解消を図るため、保育所・幼稚園・小学校・中学校間のスムーズな接続に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校ブロックごとに合同授業研修や連携の担当者会を開催し、保幼小中連携を継続的に進める。</li> <li>・学びのシンポジウムを開催し、保幼小中の取組を共有する。</li> </ul>	○					○

## ■実施【Do】

（評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当））

活動指標(保育幼稚園総務課)	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
保幼小中連携会議の実施回数	回	1	2	3	3		策定	3
							現在	3
できたこと(達成したこと)	学びのシンポジウムにおいては、保幼小中の取組を共有することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	なし							
活動指標(学校教育推進課)	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
保幼小中連携会議の実施回数	回	3	0	3	3		策定	2
							現在	3
英語であそぼうデイ実施回数	回	51	34	48	46		策定	51
							現在	51
できたこと(達成したこと)	保幼小中連携会議では、非認知能力育成モデル校の実践を共有し、校区での非認知能力育成のポイントを共有することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	校区によっては、日程調整等の関係で合同研修を実施することができなかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	<p>(保育幼稚園総務課) 定期的に会議を設定して交流することにより、保幼小中の連携が深まり、接続期における子どもの理解や対応をスムーズに進めることができたため。</p> <p>(学校教育推進課) 担当者間では、効果的な実践交流などが実施できたが、保育園や幼稚園と一緒にした各校区内での取組みにつなげられていない校区もあるため。</p>
B		
活動目的を達成するための課題	<p>(保育幼稚園総務課) 保幼小中連携を担当者だけでなく、全教職員が関りをもてるようにする点では課題が残る。</p> <p>(学校教育推進課) 保育園や幼稚園との連携の重要性と先進事例の共有が必要である。</p>	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	<p>(保育幼稚園総務課) 保幼小中連携の取組について、各ブロック交流会議で教職員の交流を深め、今年度の保育所・幼稚園・小学校・中学校の接続に努める。</p> <p>(学校教育推進課) 年度当初から、保幼小中連携会議内だけでなく、コーディネーター同士の継続的な交流の場をつくる。また、引き続き、進捗状況を把握できる機会をもつ。</p>
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	保育幼稚園総務課						
実 施 事 業	事業No.	1215	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	保育の提供体制の充実	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	既存施設の利活用等により待機児童の解消に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	待機児童ゼロを維持していくために、第4期次世代育成支援行動計画に沿って整備を進めていく。なお、保育需要の状況を見て、必要に応じて計画を見直す。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
待機児童数	人	23	0	0	0		策定	0
							現在	0
できたこと(達成したこと)	老朽化した既存施設の建替えにあわせた定員増、幼稚園の認定こども園化等により待機児童ゼロを継続した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	なし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	待機児童ゼロを継続できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	就学前児童が減少していることを踏まえ、保育需要を見極めて整備していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、保育需要を見極めつつ、待機児童ゼロを継続するための必要な方策を実施していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	保育幼稚園総務課						
実 施 事 業	事業No.	1216	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	公立幼稚園のあり方の検討	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	就園者数や運営経費、公立としての役割を考慮して適切なあり方を検討します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	検討結果を踏まえた計画に沿って事業を実施する。			○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
審議会実施回数	回	0	6	0	0		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	令和3年度に策定した茨木市立幼稚園再編整備計画に基づき、整備、廃園手続き等を進めることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	なし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	計画どおり進行しているため。
A		
活動目的を達成するための課題	なし	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、計画に沿って事業を進めていく。
------------------------------------	----------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	保育幼稚園事業課						
実 施 事 業	事業No.	1217	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	幼稚園の預かり保育（一時預かり）	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	保護者の希望によって、通常の教育時間を超えて行う預かり保育（一時預かり）を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	預かり保育のニーズは依然として高いことから、継続して事業を実施する。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施か所数、延べ利用人数	か所	33	34	35	37		策定	34
							現在	38
	延人	73,098	64,415	67,768	71,358		策定	75,000
							現在	75,000
できたこと(達成したこと)	保護者のニーズに合わせて預かり保育の案内をできた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	保護者のニーズに概ね対応できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	入園希望者に預かり保育の制度をわかりやすく案内する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	入園手続き時や相談時に預かり保育の制度を案内する。
------------------------------------	---------------------------



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園事業課						
実施事業	事業No.	1218	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	延長保育	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	通常の保育時間を超えて保育を実施する延長保育を実施します。保護者の就労形態の多様化に合わせて事業の充実に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	今後も延長保育のニーズを把握し、延長保育の充実について検討する。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施か所数	か所	73	75	76	77		策定	72
							現在	79
できたこと(達成したこと)	保護者の就労形態が多様化している中で、概ね保育ニーズに対応できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	保護者のニーズに概ね対応できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	入園希望者に対して延長保育事業の制度をわかりやすく案内する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後も延長保育のニーズを把握し、延長保育の充実について検討する。
------------------------------------	----------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	保育幼稚園事業課						
実 施 事 業	事業No.	1219	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	休日保育	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 著期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	保護者の就労形態の多様化や利用者の利便性を勘案し、日曜や祝日に保育を行う休日保育を実施する保育所の拡充に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	休日保育のニーズを把握し、事業実施施設の増加を検討する。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施か所数、延べ利用人数	か所	1	1	1	1		策定	2
							現在	2
	延人	408	372	351	392		策定	540
							現在	540
できたこと(達成したこと)	保護者の就労形態が多様化している中で、連休中の預かり等、概ね保育ニーズに対応できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	事業実施施設の増加はできなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	休日保育のニーズには概ね対応できたが、事業実施施設の増加はできなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	休日保育の予約や利用方法、空き枠が出ない運営方法を再検討する。また、北ブロックにしか施設がないため、事業実施施設の増加を検討する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	企業主導型保育事業所を休日に利用した場合に利用料の一部を補助する「休日保育事業利用料補助事業」の周知を継続的に行い、企業主導型保育事業所における休日保育の利用者数増加を図る。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1220	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	保育所・幼稚園職員の研修	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	保育所・幼稚園において、社会ニーズや実態に即した研修を企画及び実施し、職員の知識・技能の向上を図ります。					
計画内容 (具体的な活動 計画を簡条書 きで記述)	研修を実施し、職員の知識・技能の向上を図る。						

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
障害児保育研修	回	9	4	2	4		策定	4
							現在	4
栄養士・看護師研修	回	2	3	3	3		策定	4
							現在	3
保幼連携研修	回	2	4	2	2		策定	4
							現在	2
できたこと(達成したこと)	各研修とも集合研修として実施できた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	各回とも集合研修で実施をしたが、新型コロナウイルス感染対策のため、研修中のグループワーク等は極力控えての実施となった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	専門的な知識を習得するとともに保育所と幼稚園職員の交流を図ることができた。また、コロナ禍で少なくなっていた遊びやうたを通しての子どもとの関わりについて学ぶことができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	感染対策に留意しつつ、研修中におけるグループワークを実施するなど、研修の実施方法について検討する必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	研修の実施方法について検討し、より職員の知識・技能の向上につながる研修を実施していく。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ①相談支援・情報提供

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1221	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育てに関する相談	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	子育てや発達などについて、電話・面接による相談を実施します。 相談内容に応じ、子育ての負担感の軽減を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	子育てに関する相談について、電話・面接・メール・オンラインなど多様な手法による相談を実施します。		○	○	○		

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
電話・メール相談件数	件	477	515	429	323		策定	質的充実
							現在	350
面接相談件数	件	97	18	135	319		策定	質的充実
							現在	350
できたこと(達成したこと)	広報誌やホームページ、SNSなど多様な媒体を通して相談についての周知を行い、保護者の不安や負担感などを気軽に相談できるよう努めた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナが始まった令和2年度から比べると、面接相談が増加し、相談総件数も増加しており、心配事・困り事のある相談者となつなうることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	今後も、ホームページやSNS等の多様な媒体による周知を行い、気軽に相談できる体制の整備に努める。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	面接や電話、メール、オンラインなど、多様なニーズに寄り添った、気軽に相談できる環境整備について、研究を行う。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ①相談支援・情報提供

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課、保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1222	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育てに関する情報発信及び利用者支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	保育サービス、公共施設での授乳室などの設備状況や子育て支援に関する情報を掲載した冊子「子育てハンドブック」を作成・配布します。また、ホームページ等でも積極的に情報を発信するとともに、スマートフォンアプリの作成・運用を検討します。また、子ども及びその保護者又は妊婦がその選択に基づき多様な教育・保育施設、地域子ども・子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、利用者支援事業の充実を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者支援事業（相談）の実施</li> <li>子育てハンドブックについて、内容を最新の情報に更新し発行・配布する。</li> <li>つどいの広場等、さまざまな場所に出向くなどし、利用者支援事業を実施する。</li> </ul>	○					○

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子育てハンドブック発行数	部	15,200	15,200	15,200	15,200		策定	15,200
							現在	15,200
関係機関連携会議回数	回	12	18	11	12		策定	20
							現在	12
できたこと(達成したこと)	ハンドブックを発行・配布するとともに、HP等さまざまな媒体を通して情報発信を行った。また、利用者支援については、アウトリーチも含めた相談を実施するとともに、関係機関との連携強化に向けた調整会議を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	SNSを通じた情報提供について、発信が少なかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	ハンドブックやホームページなど様々な媒体を通じて情報発信を行うことができた一方で、SNSを通じた情報発信は十分にできなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	SNSを活用した情報発信について、検討を行う必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	SNSを活用した情報発信について、検討を行う。
------------------------------------	-------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ①相談支援・情報提供

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1223	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育て支援総合センター各種講座	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-2-1					
	事業内容	就学前児童の保護者を対象に、乳幼児の生活リズム・家庭での事故防止等、市民ニーズを踏まえた講座を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時々の時世に合った、保護者の方に知っていただきたい内容の講座を開催します。</li> <li>・オンラインや対面など、内容に見合った手法で開催します。</li> </ul>		○				

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子育て講座等実施回数及び参加者数	回	27	21	27	25		策定	25
							現在	25
	人	644	194	267	686		策定	500
							現在	686
できたこと(達成したこと)	講座の内容に合わせてオンライン・対面を選択し、個々のニーズに合わせて参加してもらうことができた。オンライン講座については市民の方から「子どもの状況に左右されず安心して参加することができた」との意見があり、概ね好評であった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	市民の方のニーズに合わせた内容で、予定通り実施することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き市民ニーズを捉え、内容に見合った手法で実施していく。
------------------------------------	--------------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1224	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	乳児家庭全戸訪問（こんにちは赤ちゃん事業）及び4～12か月児親子交流（赤ちゃんと保護者の交流会「あかちゃんあそぼ」）	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	2-2-2					
	事業内容	子育て世代包括支援センターとして母子保健と連携し、生後4か月までの乳児のいる家庭をより効率的に訪問し、親子の心身の状況や養育環境等を把握するとともに、育児に関する助言及び子育て支援に関する情報等の提供を行います。 また、おおむね4～12か月の子どもと保護者の交流の場である「あかちゃんあそぼ」を、各地域の対象者数等を踏まえて実施します。					
計画内容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	・親子の心身の状況や養育環境を把握するとともに、育児に関する助言及び子育て支援に関する情報の提供を行うため、生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問します。 ・各地域での交流機会の少ない地域を中心に、交流の場を提供します。	○					★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
乳児把握率	%	100	100	100	100		策定	100
							現在	100
交流会参加者数	人	1,065	452	463	555		策定	1,000
							現在	555
できたこと(達成したこと)	直接訪問の実施に加えて、オンライン訪問を行うことにより、あかちゃんの現認を行った。現認ができない場合でも、こども健康センターなど他機関等との連携を図り把握率を100%を目指した。交流の場の提供については、コロナの拡大予防のため人数制限など行ったが、対面開催に加え、オンラインでの開催も行い、多数参加があった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍でもあり、保護者同士での交流を十分に図ることができなかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	直接訪問とオンライン訪問により、子育て中の保護者の不安や悩みに寄り添うことができた。また、他機関との連携を図ることにより、保護者のサポートにつながることが出来たため。
A		
活動目的を達成するための課題	概ね順調に実施できたが、今後もさまざまなニーズに対応できるようスキルアップを図る。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	こんにちは赤ちゃん事業の訪問は引き続き実施し、保護者の必要とする情報を案内し、サポートしていく。交流の場の提供については、アフターコロナの対応として、対面での場を増やし、交流の機会を創出する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1225	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	養育支援家庭訪問	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	養育上支援が必要な家庭に対し、支援担当員に加え、保育士や心理判定員等の専門職が家庭を訪問し、保護者の自立に向けた支援を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	育児ストレス等の問題によって、子育てに不安を抱える家庭に対して訪問を行い、養育相談や子育て支援サービス等の提供を行う。		○	○	○	★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
世帯数	世帯	5	9	10	7		策定	18
							現在	12
できたこと(達成したこと)	子育て相談等の関りの中から、育児ストレスや精神疾患等の問題によって育児不安を抱える家庭を本事業に繋げることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	育児不安や孤立感等を感じていながらも家庭訪問等の受け入れに拒否的な保護者もあり、本事業を利用できない家庭があった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	育児負担感や不安感の軽減のため、養育相談や子育て支援サービスの提供等を概ね適切に実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	利用世帯の育児負担感を軽減するには支援担当員のスキル向上が必須であるため、定期的な研修を実施する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援担当員の研修等を計画的に実施し、適切に相談対応やサービス情報の提供を実施できる体制を図る。
------------------------------------	---



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1226	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	地域子育て支援拠点の整備・運営支援	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-2-1					
	事業内容	就学前の子どもとその保護者が気軽に集い、自由に遊べる場を提供します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和5年度までに、地域子育て支援拠点が無い小学校区に4か所設置予定。現在25か所設置済。		○	○			★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
利用者数	人	120,233	53,014	50,590	78,576		策定	133,926
							現在	78,576
できたこと(達成したこと)	昨年度と同様にコロナ禍で事業としては縮小したが、感染症対策を講じながら対面での活動も増やしていくことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や縮小による実施となった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍で感染症対策が求められるなか、ICTを活用した活動と対面での活動を両立し、事業を実施することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	コロナ禍の影響もあり、新しい生活様式を取り入れることで、多様な市民ニーズへの対応が困難である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	新しい生活様式と共にICTの活用及びコロナ禍前の対面での活動を徐々に取り入れながら、柔軟な活動を提供していく。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1227	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育て短期支援 (ショートステイ・トワイライトステイ)	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	保護者の病気や出産、育児疲れなどで子どもの養育が一時的にできない場合や保護者の仕事などが夜間にわたる家庭などに対し児童養護施設と連携し、預かり等の対応をします。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	子どもの養育が一時的にできない場合に、子どもの一時預かりを行います。	○					○

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
延利用日数（ショートステイ）	日	95	29	34	58		策定	122
							現在	80
延利用日数（トワイライトステイ）	日	20	1	0	0		策定	76
							現在	10
できたこと(達成したこと)	個々の状況に応じ、子どもの一時預かり（ショートステイ）を実施し、保護者の負担の軽減を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響で、受け入れ制限を行わざるをえない施設もあり、受入先の選択肢が減少している。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	個々の状況に応じ、子どもの一時預かり（ショートステイ）を実施し、保護者の負担の軽減を図ることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	新型コロナウイルス感染症の感染状況により、受入体制が変化することもあり、ニーズにあった支援を継続できる環境の整備に努める必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	施設の受入状況に関する情報連携を密にし、個々のニーズに寄り添った支援に努める。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1228	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	ファミリー・サポート・センター	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-2-2					
	事業内容	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動による子育てを支援します。 また、経済的に不安を抱えるひとり親世帯に対し助成を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	依頼会員と援助会員での相互援助活動を行い、子育てを支援します。		○	○			★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
活動件数	件	4,310	2,516	3,096	3,058		策定	3,998
							現在	3,058
できたこと(達成したこと)	コロナ禍であっても支援を必要とする会員に対し、相互援助活動を行うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	依頼会員数は毎年同程度であるが、援助会員数が減少傾向にある。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	支援を必要とする会員の方への支援を行えたため。
A		
活動目的を達成するための課題	相互援助活動を円滑に行うため、援助会員の増加を図る必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	援助会員の増を図るとともに、活動していない会員が活動につながってもらえるよう、依頼内容の精査と工夫を行い、活動の活性化を図る。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1229	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	出前型一時保育	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	子育て世代が、講演会や審議会等へ参加できるように託児担当員を派遣して一時的に子どもを預かります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子育て世代がさまざまな活動に参加できるよう、会議等会場に託児担当員を派遣し、一時的に子どもを預かります。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R 元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
派遣件数	件	691	953	736	580		策定	質的充実
							現在	質的充実
派遣人員	人	2,096	1,019	1,048	1,302		策定	質的充実
							現在	質的充実
できたこと(達成したこと)	派遣依頼に対してすべて対応することができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	会議等の中止や、体調不良によりキャンセルが多くあった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	派遣依頼に対してすべて対応することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き市民ニーズの把握に努め、実施していく。
------------------------------------	-------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課、保育幼稚園事業課						
実 施 事 業	事業No.	1230	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	一時預かり（一時保育）	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	保護者の外出や病気のため、家庭で子どもの保育ができない場合など、一時的に子どもを預かります。					
計 画 内 容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	（保育幼稚園事業課）空き状況の確認や予約システムなどを備えたアプリの導入を検討する。また市民ニーズにより的確に対応するため、民間事業者等への委託も視野に今後検討する。 （子育て支援課）保護者の外出や病気、レスパイトなど、家庭での子どもの保育が困難な場合に、一時的に子どもを預かります。		○			★	

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
利用者の見込み数 （保育幼稚園事業課）	人	1,686	1,302	1,208	1,460		策定	3,065
							現在	3,065
利用者の見込み数 （子育て支援課）	人	6,577	5,730	6,051	8,554		策定	13,197
							現在	8554
できたこと（達成したこと）	（保育幼稚園事業課）保育園や幼稚園等に在籍していない児童について、家庭での保育が難しい場合における預かりの場としての役割を果たすことができた。 （子育て支援課）子育て支援総合センターでは、アプリによるオンライン予約を令和3年度に導入し、利用者の利便性の向上を図るとともに、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底しつつ、保育を必要とする方にサービスの提供を行った。							
できなかったこと （達成できなかったこと）	（保育幼稚園事業課）特になし （子育て支援課）子育て支援総合センターでの一時保育について、令和4年度はウィズコロナの生活が定着しつつあることから、保育ニーズが増加し、お断りをする件数が増加した。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	（保育幼稚園事業課）保護者のニーズに概ね対応できたため。 （子育て支援課）新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底しつつ、一時保育を実施することができ、昨年度に比べて、実施件数も増加したため。
A		
活動目的を達成するための課題	（保育幼稚園事業課）一時預かり事業の制度を周知するとともに、利用を希望する保護者に分かりやすく説明をする。 （子育て支援課）新型コロナウイルス感染対策をしつつ市民ニーズに対応すること。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	（保育幼稚園事業課）市民ニーズにより的確に対応するため、民間事業所への委託や制度の周知等を行っていく。 （子育て支援課）感染状況を見極めつつ、市民ニーズに対応できるよう、状況に応じて検討する。また、今後増加が見込まれる一時保育のニーズに対応できるよう、拡充を検討する必要がある。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園事業課						
実施事業	事業No.	1231	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	病児・病後児保育	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	病院・保育所等において病気の児童を一時的に保育するほか、保育中に体調不良となった児童への緊急対応等を行います。 訪問型病児・病後児保育事業補助の周知を継続的に行い、利用率の向上を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	訪問型病児保育について、令和4年度から非課税世帯の補助額を拡充し、低所得者の利用促進を図る。			○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
病児対応型 延べ利用人数	人	620	5	10	6		策定	600
							現在	600
病後児対応型 延べ利用人数	人	82	60	50	78		策定	125
							現在	125
体調不良児対応型 施設数	施設	33	34	35	37		策定	42
							現在	42
訪問型事業補助 延べ利用人数	人	30	22	65	18		策定	40
							現在	40
できたこと(達成したこと)	訪問型病児保育の周知を進めることができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の感染状況により、訪問型病児保育の利用者が減少した。訪問型病児保育について、低所得者の利用が見受けられない。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	訪問型病児保育の周知を進めることはできたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、利用者が減少したため。
B		
活動目的を達成するための課題	特になし	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	訪問型病児保育については継続的に周知を行い、低所得者も含めて利用率の向上を図ります。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ③経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1232	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	児童手当	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	家庭生活の安定に寄与するとともに児童の健やかな成長を願って支給する児童手当について、制度の普及・啓発に引き続き努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	制度改正に伴うシステムの改修、市民への周知等、適正な事務執行に努める。		○	○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
対象児童数	人	39,425	38,312	37,945	34,918		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	現況届の届出義務廃止や所得上限額創設の制度改正について、適正な事務執行に努めることができた。また、新型コロナウイルス感染症が長期化し、より厳しい経済状況にある子育て世帯を対象に給付金を支給した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	児童手当等を支給することにより、児童の健やかな成長、家庭生活の安定に寄与することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、所得制限の撤廃、対象者の拡大、支給額の改定など、国の動向を注視し、制度改正に対応する必要があります。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ③経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1233	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	こども医療費の助成	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	子どもの健やかな育成を支援するため、子どもの医療費の一部を助成します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子どもの健やかな育成を支援するため、継続実施する。	○					○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
助成件数	件	585,142	434,297	522,732	616,688		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	令和3年10月から対象年齢を18歳到達年度末までに拡充したことにより、助成件数は、令和元年度比で5.4%増加した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	子どもの医療費の一部を助成することにより、子どもの健やかな育成を支援することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	子どもの健やかな育成を支援するため、継続実施する。
------------------------------------	---------------------------



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ③経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	居住政策課						
実 施 事 業	事業No.	1234	ライフステージ				
	事業名	茨木市多世代近居・同居支援事業	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	社会的 支援 ワーク・ ライフ ・ バランス 貧困 計画
	取組番号	5-3-4					
	事業内容	多世代（親世帯と子世帯）が支えあって暮らせるまちづくりを進め、子育てや介護などの各世代が抱える不安の軽減を図ります。 子世帯（中学生以下の子どもがいる世帯または40歳未満の夫婦世帯）と親世帯（子世帯の父母または祖父母）のいずれかが近居・同居するために、住宅を購入または持ち家をリフォームした際に、市外から転入した世帯に費用の一部を補助します。（補助額／上限30万円）					
計 画 内 容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	令和6年度において、交付件数を50件にする。	○					

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
補助金の交付件数	件	59	43	46	71		策定	40
							現在	50
できたこと（達成したこと）	補助制度の周知啓発により、活動目標（年間40件）を超える補助金を交付することができた。							
できなかったこと（達成できなかったこと）	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	市広報誌にて3か月に一度掲載し、また、市ホームページ、いばらき市民ハンドブックにて掲載、子育てイベント等での連携等により対象者へ周知することに加え、融資金融機関を通じ、住宅関連会社等へ広報したことにより活動目標（年間40件）を達成できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	制度の活用が継続される必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今年度以降もさらに制度が活用されるよう周知・啓発を継続する。
------------------------------------	--------------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	中央図書館						
実施事業	事業No.	1235	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子どもの読書活動推進	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	取組番号	3-1-5					
	事業内容	子どもが読書に親しめるよう、読書環境の整備を図るため、ブックスタートの実施、おはなし会等様々な行事を実施するとともに、子どもの読書推進への理解や関心の普及・啓発のための講座を開催します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度中にコロナ禍でもブックスタートの意義を伝えられるよう工夫する。またR5年度の新施設での実施方法を開館までに決定する。</li> <li>・R4年度中に新たな場所でのおはなし会を開催し、R6年までに開催回数を300にする。</li> <li>・R6年度までに講座の開催方法を工夫し、受講者数を400にする。</li> </ul>						

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標①	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ブックスタートの絵本の配付数 (対象児1人に1冊絵本を配布)	冊	2,090	2,343	2,246	2,258		策定	2,500
							現在	全出生数
できたこと(達成したこと)	本とともに、読書記録帳、本を介した親子の触れ合いの大切さを記載したリーフレットを配布し、本に親しむ環境を提供できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍により、読み聞かせや絵本の紹介を十分にできなかった。							
活動指標②	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
おはなし会開催回数と参加者数	回	383	73	130	207		策定	420
							現在	300
	人	16,705	1,992	2,519	7,046		策定	16,000
							現在	9,000
できたこと(達成したこと)	感染防止対策を取りながら、中央図書館や分館、小学校、幼稚園、保育所等で開催することができた。新たに私立保育所・幼稚園等へのおはなし会ボランティア派遣を開始し、子ども達がものごとくに触れる機会を増やすことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍により、図書館でのおはなし会について人数制限をせざるを得なかった。							
活動指標③	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子どもの読書推進のための講座 開催回数と参加者数	回	9	3	7	7		策定	9
							現在	7
	人	438	126	345	307		策定	320
							現在	400
できたこと(達成したこと)	感染防止対策を取り、参加人数を制限するなどして対面での講座を再開した。オンラインの講座も開催し、来館せずに受講してもらうことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	対面での講座は引き続き人数制限をせざるを得なかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新たに私立の保育所・幼稚園などへのボランティア派遣を開始し、子ども達がものごとくに触れる機会を増やすことができたため。また、講座の開催については、引き続きオンライン講座と対面開催を併用し、読書環境の整備や子どもの読書推進についての普及・啓発ができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	それぞれの事業について適切な実施方法を工夫する必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和5年度の新施設での実施までにブックスタートの実施方法を検討し、開館後実施する。 令和5年度中に私立の保育所等へのボランティア派遣によるおはなし会開催について周知やフォローを充実し、派遣先・派遣回数を増やす。講座開催について適切な実施方法を検討し、引き続き子ども読書活動推進の普及・啓発を図る。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課、地域福祉課						
実 施 事 業	事業No.	1236	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	世代間交流	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	1-2-1					
	事業内容	〔地域福祉課〕子どもの社会体験・自然体験やスポーツ活動の機会を提供します。（シニアプラザ「シニアマイスター」からの講師選定を一部義務化） 〔こども政策課〕幼児から中学生を対象に、地域の高齢者が講師となり、昔遊び、手作りおもちゃ、囲碁・将棋の指導、絵本の読み聞かせ等の様々な体験学習を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	感染防止対策を実施しながら、令和6年度までに世代間交流事業の参加人数を3,000人にする。		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標（地域福祉課）		単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
世代間交流事業	実施回数	回	223	146	128	175		策定	60
								現在	180
	参加人数	人	4,931	1,680	2,027	2,581		策定	1,200
								現在	3,000
できたこと(達成したこと)		世代間交流事業の参加人数が増加し、高齢者と子ども世代との交流ができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)		コロナ禍の影響により、子どもと重症化リスクの高い高齢者の交流を控えていたため、実施回数が少なかった施設もある。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	実施回数が少なかった施設もあるが、全体的には、感染防止対策を実施しながら、高齢者と子ども世代との交流ができたため。
B		
活動目的を達成するための課題		高齢者と子ども世代の交流であるため感染防止対策と参加人数の増加。

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	感染防止対策を実施し、周知の継続とその他周知方法の検討により、令和6年度までに世代間交流事業の参加人数を3,000人にする。
------------------------------------	--

※同事業は地域福祉課で実施

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	人権・男女共生課						
実 施 事 業	事業No.	1237	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	ローズWAM親子交流	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	7-5-1					
	事業内容	保護者が男女共同参画の子育てを学び、就学前児童と保護者がリズム遊びや手遊び等で楽しく遊ぶ機会を提供します					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	保護者が男女共同参画の子育てを学び、就学前児童と保護者がリズム遊びや手遊び等で楽しく遊ぶ機会を提供する。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
講座等に参加した親子等の人数	組	15	19	18	0		策定	50
							現在	30
できたこと(達成したこと)	コロナ禍の状況もあり、事業実施の意義等を改めて検討するため、当該年度においては休止した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	事業を実施しなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	事業内容、計画内容を実施するに至らなかったため。
-		
活動目的を達成するための課題	ローズWAMの目指すところ、男女共同参画計画での目標を達成するために親子交流という観点からどのような事業とするか検討する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	おにクルとの役割分担を踏まえ、課題達成のための検討を令和5年度中に行う。
------------------------------------	--------------------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	歴史文化財課						
実 施 事 業	事業No.	1238	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子供向け文化財普及啓発活動	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	3-3-4					
	事業内容	子ども向けの展示や体験学習、イベントの実施に積極的に取り組み、子どもが本市の歴史・文化財に興味を持つ機会の提供に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和4年度は、郷土史料室において、子ども向け図書を拡充する。 令和5年度は、展示室に体験コーナーを設置する。 令和6年度は、体験学習教材を製作する。						

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
夏休み体験学習講座参加者数	人	73	0	31	31		策定	40
							現在	40
展示等における子ども向け企画開催回数	回	2	2	3	4		策定	2
							現在	2
出前授業等の参加者数	人	683	755	1,722	1,828		策定	1,000
							現在	1,000
できたこと(達成したこと)	郷土史料室において子ども向け図書の拡充やパズルなど興味を引き付ける工夫により、より多くの子どもに興味を持ってもらえる機会を増やすことができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	図書を拡充し、企画の開催回数も増やすことができたことから、歴史・文化財に興味を持つ機会の提供ができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	広報誌やホームページ以外に、より多くの子どもへの周知が必要である。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	各取り組みについて、学校等へ周知を働きかけるなど啓発を行う。
------------------------------------	--------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1239	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子ども・若者支援地域協議会	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	7-7-1					
	事業内容	子ども・若者支援地域協議会に参画する様々な支援機関・団体の専門性を活かし、社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども・若者の状況に応じた支援を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	今後も継続して、様々な支援機関・団体の専門性を活かし、社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども・若者の状況に応じた支援を行う。		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
機関を越えたコラボ事業 (会議・研修会・イベント等)実施回数	回	17	8	12	14		策定	10
							現在	15
ケース会議開催回数	回	161	113	79	131		策定	155
							現在	155
できたこと(達成したこと)	協議会構成機関に大阪府立北摂つばさ高等学校、市内全小学校などが新たに加わった。協議会にヤングケアラー部会を設置し、支援者を対象とした実態調査を実施した。実態調査の結果と今後のヤングケアラー支援について、市民等を対象に講演会を実施した。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	協議会構成機関が増えたことにより、更なる連携が可能になった他、ヤングケアラー実態調査の結果から今後の支援の検討を行ったため。
B		
活動目的を達成するための課題	ヤングケアラー実態調査の結果、小中学校やCSWなどの関係機関との連携や、相談窓口の充実が求められていることから、社会全体で支援する体制の強化を図る必要があります。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	子どもやその家族、市民及び関係機関等の支援者を対象としたヤングケアラーに関する一元的相談窓口を開設し、ヤングケアラーコーディネーターを配置する。また、市内の支援者を対象にヤングケアラー事例検討会を開催し、具体的なヤングケアラー支援の手法等について検討する。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	健康づくり課						
実施事業	事業No.	1301	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	食育システムによる講座	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-3-3					
	事業内容	児童・生徒や、市民を対象に栄養バランスをすぐにチェックできる食育システムを使い、バランスの良い食生活を学ぶ講習会を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	食事バランス診断 SAT システムによる教育 小・中学校との連携をより一層強化し、併せて3か所以上の講座実績/年を目標						

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
学校版SAT出前講座実施人数	人	502	0	0	135		策定	500
							現在	200
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2・3年度は実施できていなかったが、令和4年度は1か所の小学校で実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により出前講座の周知が十分に実施できなかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	実施人数が少なく、望ましい食習慣や栄養の大切さについて学び実践できるよう、より多くの児童・生徒に教育をしていく必要があるため。
C		
活動目的を達成するための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事バランス診断 SAT システムによる教育の小・中学校への周知</li> <li>・SAT システムによる教育ができる人材の確保</li> <li>・SAT システムの貸出の検討</li> </ul>	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	小・中学校へ食事バランス診断 SAT システムによる教育の周知を積極的に行う。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	健康づくり課						
実 施 事 業	事業No.	1302	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子どもクッキング	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-3-3					
	事業内容	児童・生徒が食生活の大切さを学び、望ましい食習慣を身につけられるよう、調理実習等の講習会を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	調理実習 令和5年度10月～の新施設オープンに伴い、調理実習の企画数を増やす。募集人数も実習室の容量に沿って増やす。					○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
開催回数	回	2	0	0	2		策定	3
							現在	3
参加者数	人	57	0	0	34		策定	30
							現在	30
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2・3年度は実施できていなかったが、令和4年度は令和元年度同様の回数で実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により、1回実施あたりの受け入れ人数を増やすことができなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	策定時の令和6年度の目標値を達成し食文化について学んでもらうことができたが、参加人数や内容等、実施方法の見直しが必要であるため。
B		
活動目的を達成するための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習の実施場所の確保</li> <li>調理実習の企画の多様性の検討</li> </ul>	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	食育推進ネットワークを活用し、多様な企画を検討する。
------------------------------------	----------------------------



## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1303	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	健康管理への支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	小・中学生自らが心身の健康管理ができるよう、健康づくりや生命の大切さ、十代の性に関する正しい知識の普及を支援します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	出前型講座を実施していない小・中学校への取組を推進していく。また、思春期保健教育において必要な対策や取組について、思春期保健教育に関わる関係機関との連携を図り、検討していく。		○				

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
(思春期教育等の教育用媒体等貸出数) 沐浴人形	件	17	7	7	10		策定	増やす
							現在	増やす
妊娠シミュレーター	件	6	3	3	2		策定	増やす
							現在	増やす
できたこと(達成したこと)	出前講座を開催できた学校では、生徒らの年齢に応じた講座を行うことで当事者意識をもって受講してもらえた。感染症流行状況により外部講師の受け入れが不可の学校では、こちらから資料を提供することで、養護教諭が自ら講座を開催できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった学校があった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	出前講座を開催できた学校では、生徒らの年齢に応じた思春期講座を行うことで興味を持って受講してもらえたため。また、感染症拡大防止に配慮しつつ、学校のニーズや社会情勢に応じた方法で思春期保健の知識を普及することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	学年に応じた内容を学校側と検討していく必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	現在の内容は比較的中学年に向けた内容に近いので、高学年向けの内容も検討する。また依頼のあった学校だけではなく、市内全域に普及していくように啓発していく必要がある。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	健康づくり課						
実施事業	事業No.	1304	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	防煙教育	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	1-5-1					
	事業内容	たばこに関する正しい知識の普及や、教材貸出を通じて、児童・生徒に対する防煙教育を支援します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	教材貸出 受動喫煙防止の視点で、市広報誌やホームページ等での周知を引き続き行う。						○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
教材の貸出回数、人数（対象の生徒数）	回	1	1	2	0	—	策定	-
							現在	-
	人	141	175	320	0	—	策定	-
							現在	-
できたこと（達成したこと）	教材の貸出はなく、特になし。							
できなかったこと（達成できなかったこと）	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	実績がなく、評価困難であるため。
—		
活動目的を達成するための課題	平成25年度から実施してきたが、近年の実績が少なくなっている。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後は受動喫煙を防止するための環境づくりを推進していく。
------------------------------------	------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	人権・男女共生課						
実 施 事 業	事業No.	1305	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	デートDV防止啓発	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	7-5-2					
	事業内容	デートDV予防啓発冊子を市内中学校等に配布し、暴力によらない問題解決能力を身につける教育を推進します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デートDV予防啓発冊子を市内中学校等に配布する。</li> <li>・暴力によらない問題解決能力を身につける教育を推進する。</li> </ul>				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
デートDV予防啓発ワークショップ実施回数	回	3	2	2	2		策定	5
							現在	5
できたこと(達成したこと)	デートDV予防啓発ワークショップにより、わかりやすい形で啓発することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の予防対策で、中学校での実施回数を増やすことができなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	高校でのワークショップが毎年恒例の実施となってきたため。
B		
活動目的を達成するための課題	改めて各学校長や担当教員にワークショップについて周知を図り授業に取り入れてもらう必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	冊子での啓発と合わせ、ワークショップを実施できる学校の増加を図る。
------------------------------------	-----------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ①「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課						
実施事業	事業No.	1306	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	学力向上	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	取組番号	2-3-1					
	事業内容	これまでの12年間の学力向上施策の成果と課題を踏まえた第5次計画に基づき、実践的教育活動の活性化と本市の教育振興を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	学力向上の取組みについて、各校の進捗状況を把握するとともに、効果のある取組みを行っているかどうか、検証を行い、第5次プランの取組みにつなげる。	○					★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
全国学力・学習状況調査の正答率	正答率	小学校 1.019	調査が中止となっ たため数 値挙げら れず	小学校 1.039	小学校 1.042 中学校 1.062		策定	1.0以上
		中学校 1.029		中学校 1.022			現在	小：1.032 中：1.023
学力低位層の率	正答率	小学校 0.870	調査が中止となっ たため数 値を挙げ られず	小学校 0.810	小学校 0.846 中学校 0.815		策定	1.0以下
		中学校 0.934		中学校 0.932			現在	小：0.854 中：0.952
できたこと(達成したこと)	学力向上担当者会等や小中連携の取組みを計画的に実施し、学力向上に関する各校の効果的な取組み発信や共有ができた。また、授業改善に取り組んできたことから、小中学校とともに、前回調査比較で正答率が改善し、中学校での学力低位層の率も大幅に改善された。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	小学校での学力低位層が増加し、無解答率も上昇した。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	正答率については小学校・中学校ともに目標数値・学力低位層が目標数値を達成しているが、小学校の学力低位層が増加したため。
B		
活動目的を達成するための課題	非認知能力の育成を含めた確かな学力の育成に関するモデル校の取組み等を各校での実践につなげ、さらなる普及のため、各校の校内研究体制の充実を図る必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	各種課題の改善の土台である非認知能力育成の取組みが停滞しないように、各学期の学力向上担当者会にて、改善に向けた今後の方針と校内研究の実践事例を示し、担当者と一緒に連携を図りながら学力向上を図る。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ①「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課							
実施事業	事業No.	1307	ライフステージ					
	事業名	体力向上	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期		
	取組番号	2-3-3						
	事業内容	児童・生徒に、生涯にわたって運動に親しむ知識・技能や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持・増進と体力の向上を図ります。小・中において、スポーツテストを実施し、児童・生徒が自らの体力の状況を知り運動への動機づけとするとともに、市内及び学校全体のデータを体育指導に有効に活用します。					社会的 支援	ワーク・ ライフ ・ バランス
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間3回の元気力向上担当者会を実施する。</li> <li>小学4年生から中学3年生までの6年間のスポーツテストを各校で実施する。</li> <li>令和5年度までに元気力向上担当者と食育担当者の合同交流会を実施する。</li> </ul>	○					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
体力合計点	(点)	小：54.2 中：44.9	調査が中止 となったため、 数値を挙げられず	小：52.7 中：42.5	小：52.6 中：42.3		策定	向上
							現在	小：53.5 中：44
「運動スポーツが好き」と回答する割合	(%)	小：89.6 中：84.6	調査が中止 となったため、 数値を挙げられず	小：85.3 中：79.3	小：86.3 中：80.7		策定	向上
							現在	小：90 中：85
できたこと(達成したこと)	元気力向上担当者会を開催し、各校での取組みの推進につなげ、運動への興味関心を高めたことにより、「運動・スポーツが好き」という質問に対し、肯定的な意見の割合は昨年度より上昇した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	体力合計得点は昨年度よりも低下傾向にある。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	「運動・スポーツが好き」という質問に対しては上昇傾向だが、体力合計得点は全国平均を下回っているため。
B		
活動目的を達成するための課題	体力合計点については、小中の種目ごとの傾向を分析・検証し、各校の取組みにつなげていく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	経年比較により分析検証した結果に基づき、市全体に必要な取組みを各校で実践する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ①「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	施設課						
実施事業	事業No.	1308	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	学校施設の整備	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若年期	
	取組番号	2-4-1					
	事業内容	快適な学習環境を整備するため、校舎の大規模改修や、便所改修・バリアフリー化への対応など、設備の充実に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	小中学校において年次的に便所改修、大規模改修を実施する。						

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
大規模改修や便所改修等設備の充実 (小中学校営繕事業)	便所 (校)	小2	小3	小5	小4		策定	小5
		中1	中0	中3	中2		現在	小5 中2
	大規模 (校)	小1	小0	小1	小2		策定	小2 中1
		中1	中0	中1	中1		現在	小3 中1
できたこと(達成したこと)	便所改修について、小学校4校、中学校2校の工事が完了した。 大規模改修について、小学校2校、中学校1校の工事が完了した。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	国の補助金を効果的に活用し、計画どおり実施することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	施設整備における予算の確保。 ウクライナ情勢等に伴う資材不足、物価高騰。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	施設整備には多額の経費を要するため、国の補助金を活用し、経費の平準化を図るとともに、社会情勢を見据え、優先順位を定めて計画的に事業を進めていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ②就学及び進路・進学のための支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学務課						
実施事業	事業No.	1309	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	就学援助	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	小・中学校に通学している家庭で、学用品費、修学旅行費等の支払いが困難な家庭に、その費用を補助します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援助費を適正に支給し、保護者の経済的負担を軽減し、義務教育の円滑な実施に資する。</li> <li>・ 支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、制度の周知に努める。</li> </ul>					○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
支給決定児童生徒数	人	3,279	3,158	3,049	2,854		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	CSW、SSW、こども食堂などの関係団体へ周知協力を依頼し、市広報誌等へ記事を複数回掲載し、制度の周知に努めた。現に生活に困窮している世帯について、事情を考慮した審査方法に変更したことで、すみやかに援助することができた。小学校入学準備金の支給額を引き上げ、保護者の経済的負担をさらに軽減することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	審査方法を変更し、現に支援を必要としている保護者も支援できるようにしたため。また、援助費を適正に支給したことで、保護者の経済的負担を軽減しているため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、引き続き周知に努める。申請方法について、定期的に振り返り、改善を検討する。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ②就学及び進路・進学のための支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	学務課						
実施事業	事業No.	1310	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	奨学金（入学支度金）の支給	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	進学に必要な能力と意欲を持つ生徒が、家庭の事情や経済的理由により進学をあきらめることなく、自らの能力や適性等にあった進路を自由に選択できるよう、奨学金（入学支度金）を支給します。					
計画内容 （具体的な活動計画を箇条書きで記述）	<ul style="list-style-type: none"> <li>奨学金を適正に支給し、向学心のある生徒の高校等への修学を助成する。</li> <li>支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、制度の周知に努める。</li> </ul>	○					★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
支給決定生徒数	人	175	134	163	161		策定	-
							現在	-
できたこと（達成したこと）	保護者に制度案内を確実に届けるため、中学校での担任と保護者との進路面談時に直接配付するよう、中学校に依頼した。中学卒業後も対象者となりえることも周知した。現に生活に困窮している世帯について、事情を考慮した審査方法に変更したことで、援助対象にすることができた。							
できなかったこと（達成できなかったこと）	特になし。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	奨学金を支給することで、保護者の経済的負担を軽減し、向学心のある生徒の高校等への修学を支援しているため。
A		
活動目的を達成するための課題	中学卒業後も奨学金の支給対象者となりえることを、より広くに周知する必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、引き続き周知に努める。申請方法について、定期的に振り返り、改善を検討する。
------------------------------------	---



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ②就学及び進路・進学のための支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学務課						
実施事業	事業No.	1311	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	山地部児童・生徒通学費補助	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	通学の安全を確保するために、山地部でバス通学の許可を受けた児童・生徒に、通学費を補助します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	補助金を適正に支給し、児童生徒の通学の安全を確保するとともに、保護者の通学費負担を軽減する。						○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
支給決定児童生徒数	人	47	47	39	36		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	補助金を適正に支給することで、保護者の通学費負担を軽減し、また、児童生徒の通学の安全を確保した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	補助金を適正に支給することで、保護者の通学費負担を軽減し、児童生徒の通学の安全確保に繋がっているため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、制度の周知を図りながら、適正に支給していく。
------------------------------------	-----------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇様々な悩みに対応する体制の充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	教育センター						
実施事業	事業No.	1312	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	小・中学生及びその保護者に対する教育相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-3-4					
	事業内容	児童・生徒の学習、性格、行動、身体、発達、進路、不登校等の教育に関して、電話・面接による相談を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	児童・生徒の学習、性格、行動、身体、発達、進路、不登校等の教育に関して、電話・面接による相談を実施します。				○	★	

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
教育相談の実施	件	1,315	1,419	1,390	1,490		策定	1,400
							現在	1,400
	回	7,211	6,566	7,835	7,228		策定	6,700
							現在	6,700
できたこと(達成したこと)	児童・生徒の学習、性格、行動、身体、発達、進路、不登校等の教育に関して、電話・面接による相談を実施することができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	目標は概ね達成できた。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	相談の申込を一か所に集約し、電話でもロゴフォームでも申込可能としたので、コロナ禍にもかかわらず、相談件数も例年と変わらず実施することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	相談内容が多様化してきているので、それに応えられる相談体制の維持が必要である。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、窓口の一元化や24時間ロゴチャットでの受付を行う等、利用者のニーズに応じた体制で相談業務を行っていく。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇様々な悩みに対応する体制の充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課						
実施事業	事業No.	1313	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	生徒指導（いじめ・不登校問題行動等）への対応	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	取組番号	2-3-4					
	事業内容	いじめ、不登校等の問題行動に対し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、いじめ対策指導員が小中学校と連携し、迅速かつきめ細やかに対応する学校体制の構築を支援します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校にSCおよびSSWを配置する。</li> <li>学校の生徒指導体制にSCおよびSSWを位置づけ、適切な活用や好事例を紹介する研修を実施する。</li> </ul>	○					

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
小中暴力行為発生件数	件	113	181	173	469		策定	144
							現在	150
小中不登校児童生徒数	人	415	441	508	657		策定	396
							現在	400
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各小中学校では、ケース会議等を通じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、いじめ対策指導員など、専門的スタッフと積極的に連携を行うことで、一人ひとりに適切な支援を行うことができた。</li> <li>経験の浅い教職員を対象にいじめ不登校シンポジウムを開催し、いじめや不登校の早期発見についての研修を行った。</li> </ul>							
できなかったこと(達成できなかったこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校者数や暴力行為の件数が増加している。</li> </ul>							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	各校が専門的スタッフ活用の必要性についての理解が進み、ケース会議等でスクールソーシャルワーカーと連携し、解決につながるケースが増えてきたため。
B		
活動目的を達成するための課題	生徒指導提要の改訂によって、生徒指導について再認識を図っていく必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度内にいじめや不登校等、問題行動に対する考え方や、早期発見・早期対応ができる体制づくりの研修を実施する。</li> <li>専門的スタッフの活用や学校体制での取り組みの好事例を収集し、各校に紹介する。</li> </ul>
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇様々な悩みに対応する体制の充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課						
実施事業	事業No.	1314	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	2-3-4					
	事業内容	配慮が必要な児童・生徒や家庭を福祉面で支援するため、社会福祉の専門的な知識・経験をもつスクールソーシャルワーカー（SSW）を中学校区に配置するとともに、教育相談体制を充実させるため、スクールカウンセラー（SC）を全小学校に配置します。					
計画内容 （具体的な活動計画を箇条書きで記述）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールソーシャルワーカー 令和6年度までに、スクールソーシャルワーカーの配置を1人2中学校区にする。</li> <li>・スクールカウンセラー 令和6年度までに相談件数を10,000件とする。</li> </ul>	○					★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
相談件数・回数	SC (件)	8,890	9,970	11,473	17,268		策定	10,000
							現在	18,000
	SSW (件)	3,281	5,962	7,488	8,186		策定	3,300
							現在	8,300
できたこと(達成したこと)	スクールソーシャルワーカーの増員により、増加する相談件数に対応できるようになった。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	相談件数の増加に伴い、相談内容も多様化・複雑化しており、解決に至らない難しいケースもある。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーが広く活用され、増加する相談件数に適切に対応していく必要があるため。
B		
活動目的を達成するための課題	相談内容について、誰がどのようにかわり、何を優先していくのか、解決にむけて精査する。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和6年度までに、毎月実施している定例会の中でケース検討を行い、具体的なアセスメントを行いつつ、資質の向上を図る。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇様々な悩みに対応する体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	教育センター						
実 施 事 業	事業No.	1315	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子ども本人からの相談	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-3-4					
	事業内容	子ども本人からのいじめ等に対して電話による悩み相談を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子ども本人からのいじめ等に対して電話による悩み相談						○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子ども本人からの電話相談数	件	11	2	6	9		策定	5
							現在	5
できたこと(達成したこと)	目標は概ね達成できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	目標は概ね達成できた。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	目標相談数に達したとともに、相談者のニーズに応じて相談業務を行うことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	児童・生徒が電話相談を知り、いつでも電話できるよう周知していく。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	入学式の書類の中に教育相談のお知らせを必ずいれておく等、引き続き周知のために工夫をしていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1316	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	こども会活動の支援	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-5-2					
	事業内容	こども会活動を通じて地域の子どもたちの自主性や社会性を養うことができるよう、様々な体験活動を実施できるよう支援します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	コロナ禍以前の市主催こども会行事を開催できるよう茨木市こども会育成連絡協議会と開催方法などについて協議していく。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
こども会を対象に開催した事業数	回	7	1	2	8		策定	7
							現在	7
できたこと(達成したこと)	コロナ禍以前の行事に加えて新たな行事も実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍においても活動制限がある中、工夫し行事を実施したため、特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	感染対策を取りながら、茨木市こども会育成連絡協議会と行事の開催方法等を協議しながら実施できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	こども会のニーズに応じた行事の検討	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、茨木市こども会育成連絡協議会と協議する。
------------------------------------	---------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	スポーツ推進課							
実 施 事 業	事業No.	1317	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	スポーツ少年団の育成	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期		
	取組番号	3-2-1						
	事業内容	地域社会の中で、スポーツを通じて子どもの健全育成を図ります。						
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズスポーツデー等のイベントの実施</li> <li>・市 HP 等による広報活動の協力</li> </ul>							

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R 元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
スポーツ少年団の登録団員数	人	533	519	554	538		策定	570
							現在	570
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルスの感染症対策を講じながら、キッズスポーツデーを開催し、750人の参加を得た。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	子ども達にスポーツをする機会を提供したが、団員数の増加には至らなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍においても会員数をおおよそ維持できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	スポーツに興味を持つように、市広報誌やホームページにより団員の募集や教室の周知を行う。スポーツを体験する機会の提供を行う。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	キッズスポーツデー等のスポーツの体験ができるイベントを引き続き実施し、団員の減少に歯止めをかける取組を行う。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	スポーツ推進課								
実 施 事 業	事業No.	1318	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画			
	事業名	スポーツ環境の整備	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期				青年・ 若者期
	取組番号	3-2-2							
	事業内容	総合型地域スポーツクラブの支援など地域におけるスポーツ環境を整備します。							
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の優先使用</li> <li>広報活動の協力</li> </ul>								

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
総合型地域スポーツクラブ会員数	人	1,405	1,239	1,218	1,225		策定	1,560
							現在	1,700
できたこと(達成したこと)	施設の優先使用や広報などで支援した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	会員数を増やす有効な取組みが行えなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	微増ではあるが会員数が増加したため。
B		
活動目的を達成するための課題	会員数を増やす有効な取組みを検討する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	クラブの現状を把握し、会員数を増やすための手段をクラブと共に検討し、維持のための支援や広報を行う。
------------------------------------	---



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	環境政策課						
実施事業	事業No.	1319	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	環境教育・啓発	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	取組番号	6-3-1					
	事業内容	将来を担う子どもたちをはじめとする幅広い市民を対象に、環境に関する学習会・研修会・観察会等を開催し、環境保全意識を高め、環境行動につなげていきます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和6年度までに、小学校向け環境学習プログラムの実施回数を30回とし、子どもたちを対象に環境保全への意識を高めていく。そのため、ボランティアも含めて、学校で取り組むことができる環境学習プログラムの活用を促していく。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
小学校向け環境学習プログラムの実施回数	回	17	18	19	7		策定	30
							現在	30
こどもエコクラブへの登録者数	人	61	57	45	35		策定	80
							現在	60
できたこと(達成したこと)	環境学習プログラムを継続的に実施している小学校があり、環境学習が定着してきている。また、令和4年度に、小学校向けに環境啓発の動画を作成し、環境教育への活用を促した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	環境学習プログラムの実施回数を増やすことができていない。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルスの影響が残っていたことも一因となり、環境学習プログラムの実施回数を増やすことができなかったため。また、新たな取組として、小学校向けに環境啓発の動画を作成し、活用を促すことができたため。
C		
活動目的を達成するための課題	環境学習プログラムの担い手となるボランティアの高齢化が進んでいる。長期的には、新たなボランティアの担い手を増やし、より魅力的なプログラムを提供していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後は、環境学習プログラムの担い手となるボランティアの登録数を増やしていき、新たなボランティアも含めて、学校に取り入れやすいプログラムを検討していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	社会教育振興課						
実施事業	事業No.	1320	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	家庭教育支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	3-1-3					
	事業内容	子どもを育成するために必要な知識及び技術を身に付け、保護者としての家庭教育力の向上を図るとともに、保護者どうしの連帯を深めるための学習の機会を提供します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	家庭教育を支援するため、保護者同士が交流し学び合う各種講座等を実施し、学習機会の提供を行う。						○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
家庭教育関係事業実施回数	回	22	6	13	9		策定	25
							現在	25
できたこと(達成したこと)	学生 NPO と連携した講座事業や親まなび講座を、コロナ禍においても順調に実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	親まなび講座については、実働できる講師数不足などが原因で、家庭教育学級での必須講座から外したことにより実施回数が減少した。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	オンラインの活用や講座内容を工夫することで、コロナ禍においても学習の機会が提供できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	社会情勢の変化に応じて、講座内容や実施形態等を見直していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ICT の活用や関係団体との連携等を進め、今後も社会的課題を踏まえた学習機会の提供に努めるとともに、将来に向けた新たな実施手法の検討を進める。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課、学校教育推進課						
実 施 事 業	事業No.	1321	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	乳幼児とのふれあい・交流	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-2-1					
	事業内容	子どもを生き育てることや生命の大切さなどを学ぶことができるよう、乳幼児とのふれあい体験の機会を提供します。					
計 画 内 容 (具体的な活動 計画を簡条書 きで記述)	各学校の実施意向を確認し、依頼のあった学校がふれあい学びが実施できるようサポートする。					○	○

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標（子育て支援課）	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
「ふれあい学び」派遣学校数	校	8	1	2	2		策定	5
							現在	2
「ふれあい学び」参加者数 (保護者及び乳幼児)	人	541	11	-	138		策定	453
							現在	138
活動指標（学校教育推進課）	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
公立中学校での実施	校	14	11	12	13		策定	7
							現在	14
できたこと(達成したこと)	(子育て支援課) 昨年度はLINE電話を用いたりリモート実施だったが、対面での開催を再開し、高校生と親子が直接ふれあう機会を提供できた。(学校教育推進課) 子を持つ親としての体験談や胎児人形を利用した抱っこ体験等を通して、自分の命や周りの人たちの命の重さを感じるとともに自分を生んでくれた親や自分を育ててくれた保護者などに思いをはせ、生命を尊重する心の教育と自尊感情を育成する一助となった。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	(子育て支援課) 対面での開催を再開したが、派遣学校数はコロナリモート開催時と同件数にとどまった。(学校教育推進課) コロナウイルス感染症拡大防止のため、「赤ちゃん先生」の体験活動ができなかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	(子育て支援課) 昨年度に比べ派遣学校数・参加者数ともに増加したが、目標数値には届かなかったため。(学校教育推進課) 体験活動が制限された中でも各学校が工夫し、自分の存在価値について改めて確認できた生徒が多く、生命を尊重する心の教育と自尊感情を育成する一助となったため。
B		
活動目的を達成するための課題	(子育て支援課) 実施を検討している学校のニーズを把握する。 (学校教育推進課) この学習で終わらず、日常生活の中でもこの学びを活かし他者理解と自尊感情を育てる。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	(子育て支援課) 各学校等の意向を受けて実施する取組であり、実施を検討している学校と、どのような開催方法が可能かなど、情勢に合わせて考えていく。(学校教育推進課) この学習で終わらず、日常生活の中でもこの学びを活かし他者理解と自尊感情を育てる。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	都市政策課						
実 施 事 業	事業No.	1322	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子どもたちの体験型まちづくり学習	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	5-4-5					
	事業内容	子どもたちの「まち」や「まちづくり」への関心を高め、将来のまちづくりの担い手としての成長を期待して、体験型の学習の場を提供します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	R5年度 高校、大学でまちづくりについての授業の実施 R6年度以降 小・中学校、高校、大学向けにまちづくりについての出前講座や授業を実施						○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
参加人数	人	0	0	0	121		策定	30
							現在	120
できたこと(達成したこと)	参加者が少なかったまちづくり塾の取組をR4年度に見直し、出前講座として小学3年生向けにまちづくりについての授業を実施した。より多くの小学生にまちづくりについて知ってもらえた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	R1～R3年度に関しては、新型コロナウイルスの影響により活動の実施を見合わせた。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	将来のまちづくりの担い手となる子どもたちに、小学校期からまちづくりについて知り、考えてもらうことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	学校からの出前講座の依頼の有無に影響される。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	より多くの学校でまちづくりの出前講座を希望してもらえるよう、R5年度中にまちづくり出前講座についてのホームページを作成し周知をはかっていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	市民生活相談課						
実施事業	事業No.	1323	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	市内大学・高校への出前授業及び子ども向けセミナー	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	4-4-1					
	事業内容	幅広い市民を対象に消費生活に関するイベントの開催や学校、地域での出前授業を実施するほか、保護者や学校関係者への情報提供などに努め、自立した消費者を育成します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	ターゲットに応じ、実施手法等を工夫しながら引続き実施する。						

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
市内大学・高校等への出前授業実施校数	校	5	1	4	7		策定	10
							現在	8
子ども向けセミナー実施回数	回	1	0	0	0		策定	3
							現在	1
できたこと(達成したこと)	学校関係者への積極的な働きかけにより、市内大学・高校等への出前授業は積極的に実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍の影響もあり、親子向けセミナーを実施できなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	市内大学・高校等との連携を深め、多くの学校等で出前授業を実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	親子向けセミナーについて、企業等との連携も必要なことから、その手法等について検討する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	学生等、受講者にとって興味・関心のある講座となるよう、講座実施の際は、学校関係者等との事前打合せやアンケートを行い、内容に充実した講座となるよう努める。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課								
実 施 事 業	事業No.	1324	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画		
	事業名	上中条青少年センターの運営	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期			
	取組番号	2-5-2							
	事業内容	放課後や休日に自由につどい、遊び、年齢を超えて交流できる居場所づくりを進めます。							
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	引続き、学習スペース等の利用を推進し安全安心な居場所を提供する。							○	○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
利用者数	人	7,080	5,494	6,368	9,303		策定	8,500
							現在	8,500
できたこと(達成したこと)	安全安心な居場所の提供を行うとともに、快適な居場所となるよう環境整備を図った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍においても感染対策を徹底して居場所の提供を行ったため、特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	青少年センターだより等を通して、学習室等の周知を図ることで、利用者が増加しているため。
A		
活動目的を達成するための課題	更なる利用促進のための周知。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、利用促進に努めるための、「青少年センターだより等」で周知を図る。
------------------------------------	---------------------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	地域福祉課、こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1325	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	多世代交流センターの運営	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-5-2					
	事業内容	小学生が放課後や休日に自由につどい、遊び、 中高生が学べる居場所づくりを進めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	感染防止対策を実施しながら、令和6年度までに子ども利用延べ人数を15,000人にする。				○	○	

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標（地域福祉課）	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
学習室利用延べ人数	人	5,921	2,633	2,377	2,420		策定	6,000
							現在	6,000
子ども利用延べ人数	人	14,542	3,882	4,395	5,719		策定	15,000
							現在	15,000
できたこと(達成したこと)	感染防止対策を実施し、前年と比較して学習利用および子ども利用の延べ人数が増加した。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	感染防止対策のため、事業実施の際には人数制限を設けていたことから目標人数には届かなかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	前年と比較して学習利用および子ども利用の延べ人数が増加したため。
B		
活動目的を達成するための課題	利用者増に向け、こどもフリールームや学習室の開放について、改めて周知する必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和6年までに、感染防止対策を実施し、周知方法を検討しながら、子ども利用延べ人数を15,000人にする。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	1326	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	ユースプラザの運営	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	2-5-2					
	事業内容	中学生からおおむね39歳までの子ども・若者が、気軽に過ごすことができ、社会体験や交流・相談ができる居場所づくりを進めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	子ども・若者の地域における孤立防止を目的に、ユースプラザの更なる利用につなげるため、学生ボランティア等、利用者と年齢が近いスタッフを積極的に入れる等の工夫で継続利用につながる取組を更に進める。				○	○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ユースプラザの推奨度（本人・保護者・先生・支援者）	%	45.5	48.1	43.7	40.3		策定	増加
							現在	48.1
ユースプラザふれあい・交流サロンのべ利用者数	人	7,736	7,349	13,948	17,043		策定	増加
							現在	15,342
ユースプラザ居場所のべ利用者数	人	2,455	3,120	4,815	6,064		策定	増加
							現在	5,296
ユースプラザ相談事業のべ利用者数	件	1,160	2,350	2,536	3,961		策定	増加
							現在	2,789
できたこと(達成したこと)	食育を目的とした食支援や経済観念を育成する事業を実施したことで、利用者の生きるための力を育むことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	活動内容を拡充したことから、中学校、SSW、地域との連携も進み、ユースプラザ利用者数の増につながっているため。
B		
活動目的を達成するための課題	相談支援体制の充実を図るため策定した実施要領に基づき相談員の支援力の向上を図る必要がある。また、利用者の増及び他機関連携ケースの増により、週4日の開所では対応が難しくなっている。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	相談支援体制の充実を図るため策定した実施要領に基づき、支援計画を策定しているケースについて、対象者の活動自立度を総合的に自己評価ができる指標を作成し、支援内容を振り返る機会を提供する。また、ユースプラザの開所日の拡充を図る。
------------------------------------	--



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学童保育課								
実施事業	事業No.	1327	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画		
	事業名	学童保育室の運営	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期			
	取組番号	2-4-2							
	事業内容	放課後、保護者が家庭にいない主に小学校低学年児童を預かり、児童の健全育成を図ります。集団規模の適正化や時間延長などに対応するほか、施設の充実を図ります。							
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	入室児童数の見込みにより教育委員会・小学校と連携し、引き続き場所の確保に向けて協議する。								

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
入室児童数	人	2,522	2,586	2,525	2,622		策定	2,830
							現在	2,781
支援の単位数	クラス	68	69	70	71		策定	77
							現在	76
できたこと(達成したこと)	小学校の特別教室を借用するなどして、クラス数を増加させた結果、一斉受付における待機児童は発生しなかった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	待機児童の発生がなかったため、おおむね達成できている。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	待機児童の発生はなく、事業を実施することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	場所の確保が困難な中、学童保育室の受入可能人数を増加させる方策を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	入室児童数の見込みにより、教育委員会や小学校と場所の確保に向けて協議をする。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	学童保育課						
実 施 事 業	事業No.	1328	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	放課後児童健全育成事業の支援	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-4-2					
	事業内容	放課後児童健全育成事業を行う民間事業者に対し、運営費の一部を補助することにより、待機児童の解消を図るとともに、児童の安全・安心な居場所の確保に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	民間事業者への効果的な補助内容の検討と周知を行い、待機児童の発生を抑制する。						○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
民間学童補助施設数	施設	6	9	11	9		策定	9
							現在	11
できたこと(達成したこと)	民間学童の運営費の一部を補助したことにより、公立学童保育室の入室児童数増加が緩和され、待機児童解消につながった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	待機児童の発生がなかったため、おおむね達成できている。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	運営費の一部を補助し、公立学童保育室の入室児童数が緩和され、待機児童が発生しなかったため。
A		
活動目的を達成するための課題	学童保育室入室児童の増加が見込まれ、また、場所の確保も困難である小学校区の児童を民間事業者が積極的に受け入れてもらえる方策の検討。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き民間学童の運営費の一部補助を行い、また、民間事業者からの事業開始相談の際に、今後の児童数の見込みとのマッチングを行う。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学童保育課						
実施事業	事業No.	1329	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	学童保育室指導員の研修	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-4-2					
	事業内容	児童個々の課題に対応できる知識・技能を身につけるよう指導員研修を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	様々な課題を持つ児童に対応できるよう指導員の資質向上につながる研修を実施する。						○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
研修実施回数	回	25	10	16	16		策定	25
							現在	24
できたこと(達成したこと)	指導員の資質向上、専門性を高めるための研修を実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面での研修を実施することができなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	指導員の専門性と資質の向上につながったため。
A		
活動目的を達成するための課題	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、実施方法や講師選定を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	研修対象者や研修内容、講師、年間開催回数を年度当初に検討し、さらなる指導員の資質向上に努める必要がある。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担当課	社会教育振興課						
実施事業	事業No.	1330	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	放課後子ども教室の推進	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	2-4-2					
	事業内容	放課後等に子どもたちの安全で健やかな居場所の確保を図るため、地域住民や大学生等の参画を得て、子どもたちと諸活動に取り組み、地域社会全体で地域の子どものたちを見守り育む居場所づくりを推進します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	コロナ禍での教室運営や課題等について、各校区と情報共有を図り、安全・安心な居場所の提供に努める。						

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施回数	日	2,562	0	200	1,167		策定	3,019
							現在	3,019
できたこと(達成したこと)	地域の実情に応じ、中止期間があったものの、感染症対策を講じて実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナの影響により、年間を通しての実施が出来なかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	感染症対策を講じつつ、新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを改訂し、実施環境を整えることで実施回数を伸ばすことができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	ボランティアスタッフ数の確保。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ボランティアスタッフ数の確保の課題について、代表者連絡会等を通じて各校区と共通理解を図り、解決策を検討する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	学童保育課、社会教育振興課							
実 施 事 業	事業No.	1331	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	新・放課後子ども総合プランの推進	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期		
	取組番号	2-4-2						
	事業内容	学童保育室と放課後子ども教室の両事業に児童が参加しやすくなるような環境整備や学童保育指導員と放課後子ども教室コーディネーターの連携促進に努め、放課後の居場所の充実を図ります。						
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	引続き一体型での事業実施ができるよう情報共有を図る。						○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
一体型の小学校区数	校	30	30	30	30		策定	30
							現在	30
できたこと(達成したこと)	学童保育室と放課後子ども教室の児童と一緒に体験することができるプログラムの実施。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	共同での避難訓練等の実施。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	両事業の従事者が連携して情報共有を図り、事業を実施できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	両事業実施状況の共有。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	放課後子ども総合プラン運営委員会等により、情報共有を図る。
------------------------------------	-------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇若者への自立をめざした支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1401	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	青少年に関する相談	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-5-1					
	事業内容	青少年とその保護者の相談に応じ、諸問題を解決するため、必要に応じて適切な関係機関と連携を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	「どこに相談していいかわからない」時に相談できる窓口を継続する。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
相談件数	件	1	3	0	0		策定	5
							現在	5
できたこと(達成したこと)	青少年センターだよりや相談機関への道しるべ等による周知。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	十分な周知							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	相談は無かったが、「青少年センターだより等」により、定期的な周知を図ったため。
B		
活動目的を達成するための課題	相談窓口であることの周知方法の検討。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	相談窓口の周知と相談内容に応じ、関係機関と連携を図る。
------------------------------------	-----------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇若者への自立をめざした支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1402	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子ども・若者自立支援センター	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-5-3					
	事業内容	ひきこもり等の状態にある子ども・若者が社会参加できるよう、「子ども・若者自立支援センター」において、ひきこもり等の当事者や家族の相談・支援を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	生きづらさを抱える子ども・若者の状態改善を図るため、茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」において、ひきこもり・ニート・不登校等の子ども・若者とその保護者の個別専門支援を継続実施する。				○	★	

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
スモールステップの段階（自立度）アップ率	%	95.7	96.0	96.9	97.8		策定	95.0
							現在	95.0
できたこと(達成したこと)	茨木市子ども・若者支援地域協議会の構成機関を対象に発達障害等をテーマに開催した講習会については、福祉や教育等、様々な機関から多くの参加があり、アンケート結果では、講習会の内容も高評価であった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	スモールステップ(※)の段階（自立度）アップ率が昨年度と比べ上昇していることから、子ども・若者の状態改善を図ることができているため。
B		
活動目的を達成するための課題	早期に自立への見通しが想定できる10代の当事者（保護者含む）に関する相談が増加する傾向がみられることから、ユースプラザとの連携を更に強化する必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことも影響し、相談ケースが増加していることから、今後、相談体制の充実を検討する必要がある。
------------------------------------	---

(※) スモールステップ・・・外出困難で自室生活の「ひきこもりレベル」から週40時間程度の勤務時間の職に就く「自立レベル」までの10段階の活動自立度で状況改善の変化を把握しています。

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就労の支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	商工労政課						
実施事業	事業No.	1403	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	就職サポート	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	取組番号	5-1-5					
	事業内容	就労支援などを行う関係機関と連携し、就職困難者等の職業的自立をめざすため、就職相談、講習会・セミナーの実施や職業訓練校等への誘導、合同就職面接会の開催など就職に向けた支援を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労相談を実施する。</li> <li>・社会の動向や求職者のニーズに沿ったセミナー、合同就職面接会等を実施する。</li> <li>・職業能力の開発を支援する講座を実施する。</li> </ul>	○					★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
相談カウンセリング件数	件	237	164	137	116		策定	130
							現在	130
就労支援フェア来場者数	人	456	297	235	224		策定	250
							現在	250
就職者数	人	66	24	27	41		策定	30
							現在	30
就職支援セミナー受講者数	人	118	35	41	35		策定	40
							現在	50
企業説明会・見学会参加者数	人	18	36	31	35		策定	40
							現在	40
職業能力開発講座受講者数	人	24	7	24	28		策定	30
							現在	30
就労体験者数	人	2	1	1	1		策定	10
							現在	-
再就職支援助成金利用者数	人	3	1	2	3		策定	5
							現在	5
三島地域若者サポートステーションへの案内	件	0	1	0	0		策定	1
							現在	1
できたこと(達成したこと)	就労支援フェアについて、新型コロナウイルス感染症対策として開催規模を縮小する代わりに、一部のブースでオンラインを導入して開催できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	就職支援セミナーについては新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン実施は難しく、開催規模の縮小等により、参加人数が減少した。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	就労支援フェアにおいて、参加企業の説明をオンラインで実施することに協力をいただいたことにより、就職サポートにつながったため。
A		
活動目的を達成するための課題	セミナーについて、社会の動向や受講者のニーズに沿ったテーマを選定する。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	社会の動向等を注視しながら、受講者アンケート等を参考に、テーマを選定する。
------------------------------------	---------------------------------------



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就労の支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	農林課						
実施事業	事業No.	1404	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	青年就農事業	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	5-1-1					
	事業内容	大阪府等と連携し、将来就農を目指す都市住民に対して就農認定を行い、営農相談や補助金交付などの支援を行うことで農業経営の確立をめざします。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	令和6年度までに毎年2人の就農認定を目指す。						○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
青年就農認定者数（累計）	人	-	4	4	5		策定	10
							現在	5
できたこと(達成したこと)	新たな認定者の増加が図れた。また、既に認定を受けている就農者へのサポートや補助金の交付を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	目標とする認定数を達成できなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	就農希望相談はあるが、認定できる農業経営計画が定まっていないため。
B		
活動目的を達成するための課題	新規就農者が土地を取得し、農作物を出荷して生計を立てることが難しい。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、府と連携して、農業経営計画策定をサポートする。
------------------------------------	------------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ①交流活動の推進

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	文化振興課、社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1405	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	姉妹・友好都市との青少年交流	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	3-5-1					
	事業内容	キャンプやスポーツ等により、姉妹・友好都市と様々な交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神・国際感覚の養成を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	キャンプやスポーツ等により、姉妹・友好都市と様々な交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神・国際感覚の養成を図ります。				○	○	

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標（社会教育振興課）	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
しょうどしまオーブキャンプ参加者数（訪問）	人	40	中止	中止	20		策定	40
							現在	32
いばらきフレンドリーキャンプ参加者数（受入）	人	95	中止	中止	中止		策定	110
							現在	80
活動指標（文化振興課）	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
茨木市国際親善都市協会において、国内外の姉妹都市等に住む子どもたちと、茨木市内小中学校・幼稚園に通う子どもたちが、絵画・書などの作品を交換した。	作品(茨木市から)	54	中止	53	52		策定	70
	作品(姉妹都市等から)	45	中止	89	46		現在	70
							策定	50
							現在	50
できたこと(達成したこと)	令和4年度は3年ぶりにオーブキャンプを実施することができた。令和4年度も姉妹都市との絵画・書の交換が実現した。茨木市では実地開催した総合展で姉妹都市から送付された作品を展示した。姉妹都市でも茨木市から送付した作品が実地で展示された。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍を理由とする小豆島町側からの申し出により、フレンドリーキャンプは実施できなかった。国外の姉妹・友好都市からの作品提供が受けられなかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	小豆島へのキャンプ訪問は実現したが、本市へのキャンプ受け入れは中止になったため。また、国外の姉妹・友好都市への絵画・書などの作品の送付・展示は達成でき、一定の国際交流は図ることができたが、作品の提供を受けることができなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	学校等との連携体制も整ってきており、交流活動の地盤ができてきているため、今後も認知度向上に努め、引き続き事業を継続する。また、アフターコロナにおける持続可能な交流の方法を検討する必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	市外及び国外での直接的な人員の交流活動については、コロナ禍の状況及び航空運賃の高騰等の状況を見極めつつ調整をする。絵画・書の交換や、オンラインを活用したミネアポリス市とのミーティング、ミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会のニューズレターへ記事の寄稿は今後も継続的に行う。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ①交流活動の推進

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	文化振興課						
実 施 事 業	事業No.	1406	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	青少年の国際感覚と英語等の語学力の育成	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	3-5-2					
	事業内容	茨木市国際親善都市協会青少年活動室などにおいて、歌やゲームを通して、楽しみながら英語等を学び、子どもの国際感覚と語学力を養成します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	各事業の当日の様子を協会報に写真とともに掲載し、活動内容を周知し、集客を図る。				○	○	

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
「英語で遊ぼう」・「中国語で遊ぼう」延べ参加人数	人	130	52	71	138		策定	170
							現在	140
「国際交流の集い」来場人数	人	383	中止	30	中止		策定	340
							現在	350
できたこと(達成したこと)	「英語で遊ぼう」・「中国語で遊ぼう」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加人数を制限して開催し、子どもたちに楽しみながら多言語・多文化に触れてもらうことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	「国際交流の集い」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず中止となった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍ではあるものの、参加人数を制限して開催し、子どもたちに楽しみながら多言語・多文化に触れてもらうことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	各事業でどのようにに多言語・多文化を楽しむことができるのか、子どもたちが参加したいと思えるようしっかり内容を周知する必要がある。また、多文化共生社会の実現のために、交流が活発になる魅力のあるイベント内容を検討する必要がある。開催にあたっては、アフターコロナを見据えた方法を検討していく必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	イベントへの参加者数の増加を図るため、新施設おにクルにおいて、ホール内での音楽イベントや飲食を含む内容を検討する。また、安全・安心に開催できるように会場や参加人数を考慮する。イベント開催に向けて広く周知を行うことで、集客を図る。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ①交流活動の推進

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1407	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	青少年健全育成	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-5-1					
	事業内容	地域における青少年健全育成活動を推進するため、関係団体事業の活動を支援します。また、青少年が主体的に取り組み自己有用感を高めるためのイベントを実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年健全育成運動重点目標に沿って実施された補助事業の好事例を表彰し、その取組を地域へ発信する「ほっとけん！アワード」を実施する。</li> <li>青少年イベントの運営スタッフとして、様々な部活・サークルの参加を市内高校・大学に働きかける。</li> </ul>				○	○	

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
茨木市青少年健全育成運動重点目標に沿って実施された補助事業率	%	49	39	41	51		策定	80
							現在	80
青少年イベントに運営スタッフとして参加した青少年（中学生以上）の人数	人	213	0	91	141		策定	100
							現在	100
できたこと(達成したこと)	コロナ禍での工夫を凝らした青少年健全育成に係る地域行事の促進。コロナ対策を施しながらの青少年イベントの実施。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍においても活動制限がある中、工夫し事業を実施したため、特になし。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	青少年健全育成運動重点目標に沿って実施された補助事業率が伸びたほか、青少年イベントの実施により自己有用感を高めるための機会を提供できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	青少年健全育成団体の活性化。様々な高校生等の学業スケジュールに合わせた青少年イベントの日程調整及び会場確保。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き「ほっとけん！アワード」を実施し、青少年団体の行事の好事例や工夫点等を地域に発信し、青少年団体の活動促進を図る。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ②体験活動の推進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1408	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	青少年の野外活動	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	2-5-2					
	事業内容	野外キャンプなど、子ども同士の連帯感の育成と自然の大切さを感じる心を育むことのできる場を提供するとともに、青少年活動の指導者の育成を行い、子どもの健全育成を支援します。また、学校教育と連携し、より多くの青少年に自然体験ができる機会を増やします。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	引き続き、申請のオンライン化、広報の充実などにより、利用促進を図る。 学齢や目的別に様々な自然体験の機会を提供する。		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
青少年野外活動センター利用者数	人	10,240	2,615	4,859	6,816		策定	12,000
							現在	10,000
できたこと(達成したこと)	ホームページの充実や野外活動センター便りの発行等により年間利用者数は増加した。コロナ禍ではあったが学齢や目的別に小中高等全ての市民へ体験活動の機会を提供した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により実施できない事業があった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍で様々な体験活動の機会を提供することができ、利用者の増加につながったため。
B		
活動目的を達成するための課題	利用促進とプログラムの充実	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	体験活動の意義の周知に努める。 学齢や目的別のプログラムの充実を図る
------------------------------------	---------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ②体験活動の推進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1409	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	青少年センター行事	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-5-2					
	事業内容	子ども達に豊かな体験活動の機会を提供するため、上中条青少年センター主催事業として、上中条青少年センターを中心に市の各施設を活用し、土曜日講座・イベントを実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子ども達に興味を持ってもらえるセミナーを大学や関係団体と連携し企画する。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
主催事業数	事業	49	25	38	42		策定	50
							現在	50
参加人数	人	1,397	319	855	871		策定	2,000
							現在	2,000
できたこと(達成したこと)	大学生や関係団体と連携した子どもセミナーの実施。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	コロナ禍においても感染対策や定員制限など工夫して行ったため、特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	実施時期や定員制限等の感染対策を行った上で、工作を中心に大学生や関係団体と連携した子どもセミナーを実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	子どもに興味をもってもらえるセミナー等の企画。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、子どもに興味をもってもらえるセミナー等を企画・検討するため、大学生や関係団体と連携を図る。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ②体験活動の推進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	スポーツ推進課							
実施事業	事業No.	1410	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	各種スポーツ・レクリエーション活動	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期		
	取組番号	3-2-1						
	事業内容	仲間や参加者とのコミュニケーションを図り、スポーツへの愛着心を育てるため、スポーツ・レクリエーションに親しむ機会となる行事等を開催します。						
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	地域でのスポーツ活動に対する支援			○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
地区スポーツ・レクリエーション大会の参加者数	人	29,710	0	51	10,864		策定	33,000
							現在	33,000
できたこと(達成したこと)	令和4年度はコロナ禍にもかかわらず、32地区のうち半数の16地区が、スポーツ・レクリエーション大会を開催した。(食事の時間を持たないように、昼休みなしで午前中のみ開催の地区が大半である。)開催できた地区は3年振りの開催となったが、運営や各分担におけるノウハウの再確認及び伝承を行うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍だったので致し方ないが、開催できなかった地区は令和5年度に開催する際、4年振りの開催となるため、ノウハウが失われている可能性が生じる。(運営の前任者からの引き継ぎ等が困難となっている。)							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染状況に不安が残る中、開催に踏み切った地区、大事を取って中止を決定した地区、各地区がそれぞれの判断を下したが、結果として半数もの地区が開催できたことは、令和5年度の全地区開催につながると考えるため。
A		
活動目的を達成するための課題	新型コロナウイルス感染症の感染状況は落ちつきを見せ、感染症法上の位置付けが2類相当から5類へと移行された。これに伴い、行政が市民へ要請するのではなく、個人の自主的な判断が尊重される環境となったため、大会の開催の是非はそれほど問題とはならないと思われる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	8月末までに、コロナ以前の規模での開催か、令和4年度同様縮小しての開催かを、しっかり判断する必要がある。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ①相談・情報提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	2101	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	ひとり親家庭の相談・支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	ひとり親自立支援員がひとり親家庭等の保護者からの相談について、関係機関と連携を図り対応を行います。また、ひとり親家庭等の保護者に対しては、養育費が確保できるように、啓発及び情報提供を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	相談内容に応じて各種制度の案内に努め、関係機関と連携しながら自立に向けた支援を実施する。 また、公正証書等作成費補助及び養育費保証料補助制度の周知を行う。	★					★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ひとり親家庭等の相談件数	件	962	1,580	1,267	980		策定	1,200
							現在	1,200
ひとり親のための無料法律相談の件数	件	22	58	50	44		策定	60
							現在	60
できたこと(達成したこと)	自立・就労に向け、一人ひとりの状況やニーズに応じた支援を適切に行うことができた。また、ひとり親のための法律相談の予約を電子申請可能とし、利便性の向上を図った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	ハローワークと連携し就労へつながった割合が、生活困窮者等と比べ低い。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業を新たに実施するとともに、相談件数については、前年度と比べ22.7%減少したが、新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度と比べると、1.9%増加し、自立・就労に向け、一人ひとりの状況やニーズに応じた支援を適切に行うことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	ハローワーク等の関係機関とのさらなる連携が必要である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	相談内容に応じて各種制度の案内に努め、関係機関と連携しながら自立に向けた支援を引き続き実施していく。
------------------------------------	--



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ①相談・情報提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	2102	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	ひとり親家庭への情報提供	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若 著期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	関係課と連携して、ひとり親家庭対象の講座等を実施し、ひとり親家庭に必要な情報提供と啓発を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	児童扶養手当現況届受付時に、ひとり親家庭に必要な情報提供を積極的に行う。	★					★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ひとり親家庭の施策案内の発行部数	部	221	300	150	460		策定	220
							現在	400
できたこと(達成したこと)	「ひとり親家庭の施策案内」の冊子のほか、ひとり親自立支援員の名前を掲載した名刺サイズのカードにスマホから市HPの「ひとり親支援施策」のページが確認できる二次元コードを掲載し、関係窓口等に配架することにより、ひとり親家庭に必要な情報提供ができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	「ひとり親家庭の施策案内」の冊子のほか、ひとり親自立支援員の名前を掲載した名刺サイズのカードにスマホから市HPの「ひとり親支援施策」のページが確認できる二次元コードを掲載し、関係窓口等に配架することにより、継続した支援体制を整えることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	情報提供及び啓発については、あらゆる機会を通して実施していく。
------------------------------------	---------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ①相談・情報提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	2103	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	ひとり親自立支援員のスキルアップ	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	ひとり親自立支援員のスキルアップのため、大阪府の自立支援員研修への受講を促します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	新たに採用したひとり親支援員には、様々な研修受講を促し、スキルアップを図る。					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
研修受講回数	回	5	9	9	7		策定	5
							現在	7
できたこと(達成したこと)	大阪府や関係機関が実施する研修を受講することで、他の受講者との情報交換のほか、ひとり親支援施策に係る最新情報の入手が可能となり、ひとり親自立支援員のスキルアップにつながった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	研修を受講することで、他の受講者との情報交換のほか、ひとり親支援施策に係る最新情報の入手ができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き研修を積極的に受講し、ひとり親自立支援員のスキルアップを図る。
------------------------------------	-------------------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園事業課						
実施事業	事業No.	2104	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	ひとり親家庭の保育所の優先入所	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	保育所の入所において、ひとり親家庭の受入を優先します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	利用調整指数によってひとり親家庭の受入を優先する。	★					★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
優先入所人数	人	100	122	91	90		策定	50
							現在	130
できたこと(達成したこと)	ひとり親家庭の優先的な入所案内をすることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	令和3年度より優先入所人数は減少したが、ひとり親家庭の優先的な入所案内をすることはできたため。
B		
活動目的を達成するための課題	家庭の状況に応じて、ひとり親家庭の生活の安定を図れるよう、状況に応じた選考を行う必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	各家庭の状況に応じて、ひとり親家庭の生活の安定を図れるよう、利用調整指数の見直しをしていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	学童保育課							
実 施 事 業	事業No.	2105	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	学童保育室の優先入室	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期		
	取組番号	2-4-2						
	事業内容	学童保育室において、一斉受付で定員を大幅に超えた場合、ひとり親家庭等の受け入れを優先します。						
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	一斉受付で待機児童が発生した場合、調整指数表を用いて、ひとり親家庭等の受け入れを優先的に行う。						★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
一斉受付におけるひとり親家庭の待機児童数	人	0	0	0	0		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	(一斉受付において待機児童が発生しなかったため、該当事象がなかった。)							
できなかったこと(達成できなかったこと)	(一斉受付において待機児童が発生しなかったため、該当事象がなかった。)							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	待機児童の発生はなく、該当事象がなかったが、事業の重要性等が高いため。
A		
活動目的を達成するための課題	該当事象がないため、特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	一斉受付において待機児童が発生した場合は、ひとり親家庭等の受け入れを優先して行う。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	2106	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	母子生活支援施設への入所受入	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	母子生活支援施設と連携し、生活困窮者、母子家庭などの保護を行うとともに、入所家庭の自立促進を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	生活困窮者、母子家庭などの保護を行うとともに、入所家庭の自立促進を図る。				★	★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
入所世帯数	世帯	0	2	1	1		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	自立の促進に向け、関係機関と連携し、支援が必要となる母子に適切なサービス提供ができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	自立の促進に向け、関係機関と連携し、支援が必要となる母子に、適切なサービス提供ができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	関係機関と連携を図り、引き続き実施する。
------------------------------------	----------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	2107	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	当事者団体への支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-5-2					
	事業内容	当事者団体の活動内容を充実し、活動の活発化を促進することにより、母子家庭の福祉の向上を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業を母子福祉会へ委託する。 ひとり親家庭同士の交流やつながりをもつことで早期自立及び生活の安定を図る。						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業の交流会開催回数	回	6	6	6	6		策定	6
							現在	6
できたこと(達成したこと)	ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業を母子福祉会へ委託して実施することにより、ひとり親家庭の早期自立及び家庭生活の安定を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業を母子福祉会へ委託して実施することにより、母子福祉会新規会員を増やし、ひとり親家庭同士の交流やつながりをもつことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業を母子福祉会へ委託するなど、ひとり親家庭同士の交流やつながりをもつことで早期自立及び生活の安定が図れるよう引き続き支援していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	建築課						
実施事業	事業No.	2108	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	住宅支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	5-3-6					
	事業内容	市営住宅の新規募集については、ひとり親世帯・障害者世帯・子育て世帯に対し、必要に応じ入居者募集の優先枠を設けています。また、府営住宅の入居者募集の案内を配布しています。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	毎年度、ひとり親・子育て世帯向けの優先枠を設け、入居者募集を行う。					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
市営住宅新規年間募集回数	回	2	2	2	2		策定	2
							現在	2
できたこと(達成したこと)	ひとり親・子育て世帯向けに入居者募集を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	募集を行ったが、応募がなく、入居につながらなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	ひとり親・子育て世帯向けに入居者募集を行い、令和2年度及び3年度は応募があったが、令和4年度は応募がなかったため。
A		
活動目的を達成するための課題	新規募集に係る改修に多額の費用が必要である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	より多くの方に応募していただけるよう、募集内容等の検討を行う。
------------------------------------	---------------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課、福祉総合相談課							
実 施 事 業	事業No.	2109	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	学習・生活支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 著期		
	取組番号	2-3-1						
	事業内容	生活困窮世帯・ひとり親家庭等の中学生を対象に学習支援を実施します。また、生活上の問題や進路選択（進学に要する費用や奨学金など）に関する各種相談に応じます。						
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内6か所で週2回の学習会を実施（継続）</li> <li>・学習会にて、特にきめ細かい支援を要する生徒への支援ができるよう、人件費を拡充（R3～）</li> </ul>						★	★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
継続参加率	%	56	50	56	50		策定	70
							現在	70
参加人数	人	69	69	58	73		策定	70
							現在	70
できたこと(達成したこと)	(こども政策課)ひとり親家庭の中学生については、児童扶養手当現況届時や卒業間近な小学生家庭を対象に本事業を周知した結果、利用者が増加した。 (福祉総合相談課) 中学3年生は全員進路が決定した。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	(福祉総合相談課) 令和4年度は、定員100名に対し参加人数が73人で目標値を上回ったが、会場によっても定員の充足率にばらつきがあった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	(福祉総合相談課)参加生徒に対して、学習・生活両面で充実した支援を実施。参加人数が目標値に届いたが、参加が望まれる生徒に支援が届いていないため。
B		
活動目的を達成するための課題	(こども政策課)利用の継続が難しい子どももあり、支援が必要な子どもにつながりにくい。支援が必要な家庭に直接的な情報提供と手続きの支援が必要。 (福祉総合相談課) 対象世帯への利用促進が進んでいない。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	(福祉総合相談課) 未登録の対象やその家族に対し、継続的な利用勧奨を実施する。
------------------------------------	---



## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ③就労支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	2110	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	資格取得・技能習得のための支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	パソコン等の技能習得のための講座を実施します。また、資格取得、技能習得等のための受講料の一部や、長期訓練中の一定期間の生活費を補助します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	自立支援教育訓練給付金等については、対象資格の拡充や支給経費の増額を行い、ひとり親施策のさらなる充実を図る。				★	★	

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
支給件数(自立支援教育訓練給付金・高等職業訓練促進給付金等)	件	17	17	21	7		策定	15
							現在	15
就業支援講習会等事業の受講者数(介護職員実務者研修)	人	15	14	11	12		策定	18
							現在	18
できたこと(達成したこと)	介護実務者研修(子の一時保育有)を実施し、介護保険事業所などで働く上で必要となる基本的な知識や技術を習得し、キャリアアップにつなげることで、ひとり親家庭の自立を促進することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	自立支援教育訓練給付金の支給実績が1件もなかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	前年度に引き続き、高等職業訓練促進給付金の対象資格の拡充や受講期間の短縮を行い、ひとり親施策のさらなる充実を図ることができたが、自立支援教育訓練給付金等の支給件数が、前年度と比べ66.7%減少したため。
B		
活動目的を達成するための課題	自立支援教育訓練給付金等の周知に努める必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	母子家庭又は父子家庭の生活の安定を図るため、児童扶養手当現況届出時等においてチラシを配布するなど、制度の周知を図る。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ④経済的支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	2111	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・バランス 貧困計画
	事業名	児童扶養手当	妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若年期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	子どもの成長やひとり親家庭の生活の安定を支援するため、子どもの養育に関する手当を支給します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	児童扶養手当制度のご案内パンフレットを刷新し、制度の周知に努める。				★	★	

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
受給者数（一部支給含む）	人	1,804	1,731	1,711	1,627		策定	-
							現在	-
全部停止者数	人	267	291	301	312		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	受給者数は年々減少しているが、これは児童数の減や所得の増加などによるものと考えられ、支給対象者へのサービスは適切に提供できた。また、新型コロナウイルス感染症が長期化し、より厳しい経済状況になる子育て世帯を対象に給付金を支給した。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	児童扶養手当を支給することにより、ひとり親家庭の生活の安定と自立の促進に寄与し、児童の福祉の増進を図ることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	子どもの成長やひとり親家庭の生活の安定を支援するため、子どもの養育に関する手当を継続して支給する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課							
実 施 事 業	事業No.	2112	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	ひとり親家庭の医療費の助成	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期		
	取組番号	2-1-2						
	事業内容	ひとり親家庭に属する養育者及び児童にかかる保険診療費の患者負担額の一部を助成します。						
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	継続して実施する。						★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
助成件数	件	58,400	49,640	53,457	54,888		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	児童扶養手当の受給者数と連動し、助成件数は年々減少しているが、助成対象者へのサービスは適切に提供できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	児童扶養手当の受給者数と連動し、助成件数は年々減少しているが、助成対象者へのサービスは適切に提供できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ひとり親家庭に属する養育者及び児童にかかる保険診療費の患者負担額の一部を継続して助成する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	2113	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	ひとり親家庭への福祉資金の貸付	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	ひとり親家庭の経済的自立の助成と生活意欲の助長を図るため、ひとり親自立支援員が貸付相談を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	より効果的な制度の周知方法を検討し、継続して実施する。				★	★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
貸付件数	件	23	22	6	13		策定	20
							現在	20
できたこと(達成したこと)	就学支度資金や修学資金を貸し付けることにより、ひとり親家庭の経済的自立等を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	貸付申請者等の管理台帳が整備できていない。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	貸付申請者からの問い合わせ、大阪府との事務連絡等の際に、進捗状況などがわかる管理台帳がなく、事務改善が必要なため。
B		
活動目的を達成するための課題	貸付事務が適正に執行できるよう、事務改善をする。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	進捗管理できる台帳等を作成することにより、スムーズに事務執行できるようにする。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	2114	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	特別割引制度の周知	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	児童扶養手当の支給を受けている世帯に対し、JR通勤定期乗車券等の割引制度の周知に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	児童扶養手当の支給を受けている世帯に対し、JR通勤定期乗車券等の割引制度の周知に努める。					★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
交付件数	件	469	376	260	298		策定	300
							現在	300
できたこと(達成したこと)	JR通勤定期乗車券等の割引制度を実施することにより、ひとり親家庭の経済的負担を軽減することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	特定者用定期乗車券購入証明書交付申請において、電子申請(ロゴフォーム)できるよう事務改善することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	制度のさらなる周知に努める必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	働き方改革等の影響等により交付件数は減少傾向にあるが、より効果的な制度の周知方法を検討し、継続して実施する。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ①適切な療育・保育の提供

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	発達支援課						
実施事業	事業No.	2201	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	すくすく親子教室の運営	妊娠出産期 就学前期 小中学校期 青年・若者期	★			
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	1歳8か月児健康診査後、療育を必要とする主に2歳児の乳幼児や3歳半～5歳の乳幼児が、日常生活における基本的な動作を習得し、集団生活へ適応することができるよう、適切な相談・指導・援助を行います。 また、初期療育機関として保護者の気づきを適切に支援し、関係機関とも連携を図りながら、切れ目のない支援に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子包括推進課との連携を図り、親子ひろばからスムーズに早期療育へつなぐ。</li> <li>一人ひとりの子どもの特性等保護者と共通認識を持つと共に適切な指導や助言、支援を提供していく。</li> </ul>						

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
児童発達支援事業利用児数 (延べ)療育発達相談件数	人	3,912	3,444	3,595	5,137		策定	5,200
							現在	4,500
	件	175	147	207	189		策定	200
							現在	170
できたこと(達成したこと)	健診後、親子ひろばからすくすく親子教室への案内がスムーズで早期療育支援へ導くことができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	親子ひろばの参加希望は増加傾向にあるが、コロナ禍で人数制限もあり、次の予約まで期間が開いてしまったり、保護者のニーズに合わせての案内が難しかった。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	健診フォローだけでなく、広報を見て直接親子ひろばに繋がったケースにも迅速な対応で療育に繋げることができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	適切な保護者支援、子どもへのアプローチの仕方など職員のスキルアップを構築していく必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	内外部の研修を積極的に活用するとともに、療育内容等職員間で共通認識していきながら支援の在り方を学び、人材育成につなげていく。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ①適切な療育・保育の提供

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	発達支援課							
実施事業	事業No.	2202	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	児童発達支援センター(あけぼの学園)の運営	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期		
	取組番号	2-1-2						
	事業内容	日常生活に必要な療育支援サービスや地域支援サービスを提供し、子どもの健全な発達を図ります。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和6年度までに市域における児童発達支援のあり方について、円滑な運用が可能となるよう検討する。 令和5年度中に地域相談支援のあり方について、利便性の向上を検討する。				○	○	○	★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
通所支援利用児数(延べ)	人	12,829	12,414	11,344	12,010		策定	12,500
							現在	12,500
地域支援相談件数	件	2,782	2,770	2,519	2,457		策定	3,000
							現在	3,000
できたこと(達成したこと)	コロナ禍であっても、可能な限り実習や見学、来訪者を受け入れ療育や相談を実施することでインクルージョン推進の一翼を担う活動ができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	一部の行事や活動が緊急休園等により、実施することができなかった。相談支援や訪問事業はすでに受け入れ件数がいっぱいとなっていることから、新たな受け入れが滞った。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	研修や実習等の機会を、広く庁内外に発信し周知する必要があったため。
B		
活動目的を達成するための課題	今後のインクルージョン推進を活性化するために、対外を意識し業務を行う必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和6年度の法改正を踏まえ、改正内容に対応できる人材の確保、事業者等への発信、児童発達支援センターとして諸施設との連携を推進する。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ①適切な療育・保育の提供

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	発達支援課						
実施事業	事業No.	2203	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	医療型児童発達支援センターでの機能訓練、 医療的ケア等の専門的な療育の実施	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	医療型児童発達支援センターでは、医療的ケアの必要な児童や発達に課題のある児童等を対象に機能訓練や専門的な療育を行い、支援に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療依存度の高い児童の受入れを行う。</li> <li>・事業の実践を生かした地域への支援のため、医療的ケア児コーディネーターを配置する。</li> </ul>						★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
医療型児童発達支援センター利用者数	人	4,715	3,954	3,363	3,611		策定	増加
							現在	微減
うち要医療行為対象児童利用者数	人	689	800	419	530		策定	微増
							現在	微減
できたこと(達成したこと)	医療に必要な児童に対し、専門的な療育を提供するとともに、医療的ケア児コーディネーターを配置し、地域への支援の基盤づくりを実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、流行前と比較すると利用者数の減少が見られた。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	計画について、一定の取り組みが実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療依存度の高い児童の受入促進。</li> <li>② 医療的ケア児コーディネーターによる地域の関係機関等への支援。</li> </ul>	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	医療依存度の高い児童の受入れを進めるとともに、医療的ケア児コーディネーターを活用し、引き続き、実践を生かした地域への支援を実施していく。
------------------------------------	--



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ①適切な療育・保育の提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	保育幼稚園総務課						
実 施 事 業	事業No.	2204	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	障害児保育	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若年期	
	取組番号	2-1-3					
	事業内容	障害児保育の充実に向けて、人的・物的な環境整備を図るとともに、心理判定員の保育所等への定期的な巡回に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児保育や人権保育研修を実施し、職員の知識と技能の向上を図る。</li> <li>・心理士の巡回を実施し、相談・支援を行う。</li> </ul>						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
心理士による延べ巡回日数	回	776	737	750	810		策定	810
							現在	810
できたこと(達成したこと)	これまで巡回を実施していなかった、私立幼稚園への巡回を開始し、相談・支援を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	巡回対象者の増加により、巡回日程の調整が難しく、十分な対応が出来なかったケースがあった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	これまで巡回を実施していなかった私立幼稚園への巡回を開始し、今までより幅広く巡回支援を行うことができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	対象とする施設・児童が増加しており、心理士の体制を見直す必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後の対象者増加に対応できるよう、必要な体制を整える。
------------------------------------	-----------------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	学校教育推進課						
実 施 事 業	事業No.	2205	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	支援教育	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	2-3-4					
	事業内容	障害のある児童・生徒一人ひとりが、地域の学校で地域の子どもたちと共に学ぶことを通して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服することができるよう、必要な支援や介助を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	年度を通じて人材の確保に努め、障害のある児童・生徒の教育的ニーズを把握した上で介助員の配置要綱に基づき適切な配置を行う。 医療的ケアを要する児童生徒の在籍する支援学級に看護師を医療介助員として配置する。			★			

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
配置要綱に基づき、介助員を支援学級に配置	人	小 80 中 23	小 82 中 23	小 82 中 24	小 80 中 24		策定	小 82 中 24
医療的ケアを要する児童生徒の在籍する支援学級に看護師を介助員として配置	人	小 10 中 1	小 11 中 2	小 15 中 3	小 17 中 2		策定	小 12 中 2
							現在	小 17 中 2
できたこと(達成したこと)	医療的ケアを必要とする児童生徒に対して、看護師資格を有する医療介助員を全校に配置することができた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	重度重複障害のある児童生徒に対して、より充実した介助員・医療介助員の配置や研修を進めていきたい。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	重度重複障害のある医療的ケアを必要とする児童生徒へは医療介助員の確保に努めたことから複数名配置を実現することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	就学相談等で、学びの場や合理的配慮、指導・支援等について保護者との合意形成をはかる。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	就学ガイダンスの実施、早期からの個別に対応した就学相談の実施。保護者と教職員が特別の教育課程・自立活動について相談し、児童生徒が最も伸長する学びの場を選択できるようにする。また、児童生徒への支援について、本人・保護者の教育的ニーズを踏まえて、介助員の採用面接の精度向上・適切な配置を行えるようにする。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	教育センター						
実施事業	事業No.	2206	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	幼児に対することばの相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-3-4					
	事業内容	ことばの遅れ、吃音、言語障害などことばの問題についての相談・指導を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	ことばの遅れ、吃音、構音障害などことばの問題についての相談・指導を実施します。	★					★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ことばの教室相談・指導の実施	件	135	135	150	189		策定	130
							現在	130
	回	770	757	678	782		策定	750
							現在	750
できたこと(達成したこと)	ことばの遅れ、吃音、構音障害などことばの問題についての相談・指導を実施することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	目標を概ね達成することができた。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	目標を概ね達成することができたため。また、相談者のニーズに応じた相談・指導を実施することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	引き続き周知の徹底をするとともに、相談者のニーズに応じた相談・指導を行っていく。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き周知の徹底をするとともに、相談者のニーズに応じた相談・指導を行っていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学童保育課						
実施事業	事業No.	2207	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	学童保育室での障害のある児童の受入	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若年期	
	取組番号	2-4-2					
	事業内容	学童保育室の入室を希望する児童に障害があった場合のため、人員・設備の充実等に努め、可能な限り受入を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	入室受付に必要な支援の把握に努め、児童の障害の程度等、個々の状況に応じ、設備等の設置や改修、指導員の配置を行い、受入する。					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
障害児の入室児童数	人	29	34	33	49		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	学童保育室において、すべての支援が必要な児童の受入を実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	すべての支援が必要な児童の受け入れを行うことができたため、達成できている。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	すべての支援が必要な児童の受け入れを行うことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	支援が必要な児童の受け入れ体制を充実させる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	児童の障害の程度や発達状況等、個々の状況に応じた支援を行うため、指導員配置や設備の改修等を行う。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ② とともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	障害福祉課						
実 施 事 業	事業No.	2208	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	理解促進研修・啓発	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	1-3-3					
	事業内容	障害を理由とする差別の解消や合理的配慮の提供等について、市民や事業者が理解を深めるための研修会やイベント、啓発活動などを実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度に夏休みこども手話教室の講義数及び定員を拡充する。(講義数5→10、定員25→60)</li> <li>「障害のある人もない人も共に生きるまちづくり条例」について、啓発用冊子を作成し、配布を実施する。</li> <li>おにも見にクールアート展を通じて、アートという新しい側面から障害福祉の啓発を促進。</li> </ul>						★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
理解促進研修・啓発事業	有無	有	有	有	有		策定	有
							現在	有
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みこども手話教室を8月2日～6日に開催。25人の定員に対し76人の応募があり、大盛況だった。講義最終日には、4日間で学んだ手話を用いて聴覚障害者の方々と交流し、楽しく実践的に学ぶことで障害理解が深まった。</li> <li>障害のある人もない人も共に生きるまちづくり条例の中学生版リーフレットを市内中学2年生に配布。障害の種類や、多様なコミュニケーション方法、差別事例などを中学生向けに分かり易く紹介した。</li> <li>おにも見にクールアート展を12月5日～9日に開催。障害当事者のアートや手作り作品など様々な障害福祉啓発コンテンツを開催。例年よりも多くの人に参加いただき、新たな障害福祉啓発として注目を集めた。</li> </ul>							
できなかったこと(達成できなかったこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害理解促進事業について、障害をテーマとした研修会等の実施を促進するための講師リストを作成したが、周知不足や新型コロナウイルスの影響などもあり、活用されることがなかった。</li> </ul>							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	夏休みこども手話教室は、手話を実践的に楽しく学ぶことで、障害についての理解がより深まるよい機会となったが、定員を大きく上回る応募があり、参加できない方が多くなったため。また、おにも見にクールアート展については、ダイバーシティアート展などのこれまで別に開催していたイベントと協働することで、新たな方法で啓発できたため。
B		
活動目的を達成するための課題		夏休みこども手話教室は、定員に対して応募者数が非常に多かった(倍率:2.5倍)ため、より多くの希望者が参加できるよう、講座数などの見直しを検討する必要がある。おにも見にクールアート展は、令和5年度はおにクールで開催することに加え、他機関との協働で開催するため、開催に向けて綿密なコミュニケーションと準備をする必要がある。

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	夏休みこども手話教室については、令和4年度の反省を活かし、講義数を5→10、定員を25人→60人に増やす。 おにも見にクールアート展は、他の参画機関等と定期的に会議を開催し、開催に向け綿密に準備を行う。障害理解の促進のため、SNS等も駆使してさらなる制度周知に努める。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ③障害福祉サービスの提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	発達支援課						
実施事業	事業No.	2209	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	障害児通所支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	就学前児童には児童発達支援、就学児童には放課後等デイサービスに係る通所給付決定を行います。また、障害者や家族等からの相談に応じ、障害の状況やサービスの利用意向、家族の状況などを踏まえて適切なサービスの支給決定が行えるよう、相談支援・情報提供体制を充実します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内事業所のサービスの質の維持、向上を図る。</li> <li>・支給決定に係る基準について、他市の状況を踏まえ、研究を進める。</li> </ul>						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
児童発達支援利用者数	人	514	524	573	663		策定	緩やかに増加
医療型児童発達支援利用者数	人	77	71	68	75		現在	緩やかに増加
放課後等デイサービス利用者数	人	744	832	920	1,020		策定	緩やかに増加
保育所等訪問利用者数	人	64	75	93	136		現在	増加
居宅訪問型児童発達支援	人	1	3	4	3		策定	緩やかに増加
障害児相談支援利用者数	人	262	280	268	272		現在	横ばい
できたこと(達成したこと)	事業所や市ケースワーカー等の、きめ細やかな聞き取り等により、サービスが適切に提供された。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	相談専門支援員の不足により、障害児相談支援については、十分な体制構築ができなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	概ね安定的に事業を実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	全国的な基準がないため、自治体間で適切な支給に係る考え方に差異がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	市内事業所のサービスの質の維持、向上を図るため、事業所連絡会も活用し、繋がりを強化していく。 支給決定に係る基準について、他市の状況を踏まえ検討を進めていく。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ③障害福祉サービスの提供

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	発達支援課・障害福祉課						
実施事業	事業No.	2210	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	自立支援・地域生活支援	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	1-3-1					
	事業内容	自立支援給付、もしくは地域生活支援事業などの障害福祉サービスを提供し、障害児の日常生活の安定や家族の介助・介護負担の軽減を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	支給決定基準を踏まえながら、利用者に応じたサービスが公平かつ適切に提供されるよう取り組む。						★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標		単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
サービス利用者数 (18歳未満) 自立支援給付	居宅介護	人	-	48	47	45		策定	微増
	短期入所	人	-	235	211	207		現在	横ばい
	同行援護	人	-	1	0	0		策定	微増
地域生活支援事業	移動支援	人	-	203	186	197		現在	横ばい
	日帰りショート ステイ	人	-	266	259	258		策定	増加
								現在	微減
できたこと(達成したこと)	事業所や市ケースワーカー等による状況の聞き取り等により、支給決定基準に沿ったサービスが概ね適切に提供された。								
できなかったこと (達成できなかったこと)	相談支援を利用していない場合、サービス提供状況の把握(モニタリング)に時間を要したり、十分ではないことがある。 コロナ禍により利用人数の増加には至らなかった。								

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	概ね安定的に事業を実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	サービス事業所のモニタリングや関係機関の連携機能の活用。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き事業所や関係機関と連携のもと、個々の利用状況の効率的な把握に努め適切なサービス提供につなげていく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ③障害福祉サービスの提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	障害福祉課						
実 施 事 業	事業No.	2211	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	障害特性に応じた適切な相談支援・情報提供体制の実施	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	1-3-3					
	事業内容	聴覚障害児・者やその家族からの相談に応じ、障害の状況やサービスの利用意向、家族の状況などを踏まえて適切なサービスの支給決定が行われる、相談支援・情報提供体制を充実します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	多様化する相談内容に対応できるよう、研修への参加を積極的に行い知識の習得に努めるとともに、遠隔手話通訳等の活用により聴覚障害児・者の相談支援体制の充実を図る。	★					

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
登録者数	人	30	36	37	35		策定	50
							現在	
利用回数	回	87	147	122	150		策定	200
							現在	
できたこと(達成したこと)	聴覚障害児・者への相談支援体制の充実のため、平成29年度からタブレット端末を導入し、遠隔手話通訳・電話リレーサービスを行っている。令和3年度7月から総務省の電話リレーサービスが開始されたが、市のサービス継続・拡大を求める声も多くサービスを継続している。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	タブレットを利用したサービスの利用日数を増やして欲しいとの声はあるが、現状の2日/週から増やすことはできていない。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	登録者数減少したが、利用回数は増加しているため。また、利用日数は増やせていないが、緊急時等の対応は状況に合わせて行っており「行かなくてもいい市役所」の実現に寄与する体制が取れているため。
A		
活動目的を達成するための課題	入院等の緊急時の利用を含めた利用方法を検討していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後は、多様化する相談に対応できるよう研修への参加を積極的に行う。また、病院や企業へのタブレット端末等の導入を呼びかける等啓発を行い、遠隔手話等聴覚障害児・者の利便性の向上を図る。
------------------------------------	--



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	障害福祉課						
実 施 事 業	事業No.	2212	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	特別児童扶養手当	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若年期	
	取組番号	1-3-1					
	事業内容	中程度以上の身体障害児（20歳未満）・知的障害児（20歳未満）を監護・養育している養育者に手当を支給します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	制度を利用できる家庭に確実に支援が行き届くよう、今後も本制度の更なる利用促進のため、窓口等での周知活動を継続していく。					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
受給者数	人	696	699	693	693		策定	719
							現在	699
できたこと(達成したこと)	障害のある子どもを養育する家庭への経済的支援という役割を果たすことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	受給者の増加に至らなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	受給者の増加には至らなかったが、障害のある子どもを養育する家庭への経済的支援という役割を果たすことができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	本制度の更なる利用促進のための周知活動を継続する必要性有り。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	窓口等で本制度の更なる利用促進のために周知活動を今後も継続していく。
------------------------------------	------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学務課							
実施事業	事業No.	2213	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ・バランス 貧困計画	
	事業名	支援学級等就学奨励	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 著期		
	取組番号	2-1-2						
	事業内容	支援学級等に在籍している児童・生徒の保護者に対して学用品費等を支給します。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援助費を適正に支給し、保護者の経済的負担を軽減し、支援教育の振興を図る。</li> <li>・ 支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、制度の周知に努める。</li> </ul>					○	★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
支給決定児童生徒数	人	996	1,023	1,093	1,025		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	援助費を適正に支給し、保護者の経済的負担を軽減した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	援助費を適正に支給することで、保護者の経済的負担を軽減しているため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、引き続き周知に努める。申請方法について、定期的に振り返り、改善を検討する。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇児童虐待防止対策の強化

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	2301	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	児童虐待防止活動の強化と適切な支援の実施	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	「オレンジリボンキャンペーン」等を通して、啓発活動を引き続き実施し、地域での見守り活動の推進を図り、児童虐待の未然防止・早期発見に努めます。また、児童虐待に至ってしまった親子に対し、子どもへの関わり方等の相談を受け、関係機関と十分に連携し、子育てへの不安感・負担感の軽減を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	市内公共施設にオレンジリボンツリーを設置し、市民参加型の啓発活動を実施する。また、路線バスの側面に広告を掲出し、市民に対し、児童虐待とその通告に対する理解を促進することに努め、児童相談所全国共通ダイヤル（189）等の周知を行う。	★					★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
啓発イベント回数	回	1	1	-	-		策定	-
							現在	-
啓発グッズの配布数	個	6,000	6,000	-	-		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、啓発グッズの配布を取り止めた。市内走行バスの車両側面及び扉横シートに児童虐待等予防啓発の広告を掲出し、啓発活動を実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	引き続き、通告をためらわないように啓発活動を続ける。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	年間を通じて市内一円を走行するバスに啓発広告を掲出したことで、長期間・広範囲に児童虐待予防について周知することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	啓発事業の効果を計ることが困難である。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	上記の啓発活動を継続しつつ、より効果的な啓発方法がないか検討する。
------------------------------------	-----------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇児童虐待防止対策の強化

■計画【Plan】／実施事業

担当課	人権・男女共生課						
実施事業	事業No.	2302	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	面前DVの防止及び被害者の支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	7-5-2					
	事業内容	心理的児童虐待にあたる面前DVの防止に努めるとともに、被害者・被害児童が安心して暮らせるよう支援します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	心理的児童虐待にあたる面前DVの防止に努めるとともに、被害者・被害児童が安心して暮らせるよう支援します。					★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
DVに関する相談件数	件	855	914	872	850		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	一般的なDVに関する啓発の中で、DVの類型の一つとして周知した。相談対応したケースで面前DVに該当することがある場合は関係機関と連携した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	面前DVをピックアップしての啓発はしていない。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	相談者の状況に応じて面前DVに該当する場合の対応を行ったため。
B		
活動目的を達成するための課題	家庭に児童がいる若い世代に対してのDV啓発を充実させる必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続きDVに関する啓発を行う中で面前DVについても啓発していく。面前DVを含む事案の相談の場合は児童担当部局等と緊密に連携していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇外国人や社会的養護にある児童など配慮が必要な子ども・家庭への支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課						
実施事業	事業No.	2401	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	帰国・渡日の児童・生徒への支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	2-3-4					
	事業内容	帰国・渡日の児童・生徒が習得している貴重な文化体験、母語を生かし、社会で生きる力を育むための学級を開講するとともに、日本語の理解が困難な児童・生徒に授業通訳を派遣します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適応指導教室を自身が開催</li> <li>・授業通訳を派遣</li> <li>・事業に対する周知</li> </ul>	★					★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
適応指導教室実施状況 授業通訳利用回数 通訳を受けている児童・生徒数	回	701	274	479	652		策定	300
							現在	700
	人	16	8	9	17		策定	12
							現在	18
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適応指導教室を定期的に開催し、子どもたちのサポートを行うことができた。</li> <li>・それぞれの言語に対応して、授業通訳を派遣できた。</li> </ul>							
できなかったこと (達成できなかったこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語が多様化し、対応言語の通訳者がおらず、派遣に時間を要した。</li> </ul>							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	帰国・渡日の児童生徒に対して支援をすることができたが、通訳者の派遣について課題があるため。
B		
活動目的を達成するための課題	支援が必要な児童生徒に支援を行えるよう、幅広い言語の通訳者について、日常的な情報収集に努める。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	当該児童生徒が在籍している、していないにかかわらず、事業の内容をより具体的に伝えるよう周知する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇意識啓発
	①企業への啓発

■計画【Plan】／実施事業

担当課	契約検査課							
実施事業	事業No.	3101		ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ・バランス 貧困計画	
	事業名	子育て支援の取組等を事業者評価の基準とする制度の推進		妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	取組番号	7-2-2						
	事業内容	雇用者向けの子育て支援の取組等を入札などにおける事業者評価基準の一つとする制度を推進します。						
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	令和4年度以降の総合評価の評価基準に項目を1つ以上設けます。						★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子育て支援の取組等を事業者評価の基準とする制度の推進	件	-	-	2	-	-	策定	-
							現在	2
できたこと(達成したこと)	ワーク・ライフ・バランスへの取組を総合評価一般競争入札の評価基準に採用した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	ワーク・ライフ・バランスへの取組について、認定企業の参加が少なかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	R4年については総合評価の実施案件がなかったので、前回の評価をそのまま引き継いだため。なお次回はR6年実施予定
B		
活動目的を達成するための課題	総合評価一般競争入札の評価基準配点の見直し	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	入札結果、担当課の施策、社会情勢等により、評価項目・評価と内容等の見直しを行う
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇意識啓発 ①企業への啓発

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	商工労政課						
実 施 事 業	事業No.	3102	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	雇用・労働関係セミナー及び労働に関する啓発	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	5-1-5					
	事業内容	健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境の実現を図るため、セミナーを開催するとともに、公正な採用選考、障害者・高齢者雇用促進などの啓発活動を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内企業を対象とした人権問題に関する研修会を実施する。</li> <li>労働法令等をわかりやすく解説するセミナーを実施する。</li> <li>広報誌、ホームページ等を活用し、労働関係法令等の啓発を行う。</li> <li>就職差別撤廃月間(6月)に街頭啓発キャンペーンを実施する。</li> </ul>						★

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
研修会・セミナー受講者数	人	196	50	75	65		策定	80
							現在	80
できたこと(達成したこと)	セミナーの内容をアフターコロナを見据えた働きやすい職場づくりとするなど、近年の動向を見据えた内容として実施できたため。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により、街頭啓発キャンペーンを中止した。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症の影響により、キャンペーンは中止しなればならなかったが、セミナーについては、近年の動向を踏まえた職場環境改善を図る内容にするなど、工夫して実施ができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	労働関係法令や働きやすい職場環境づくりの近年の動向を見据えたセミナー設定が必要である。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後も引き続き、労働関係法令の改正や働きやすい職場づくり施策の動向等を注視しながらセミナー設定を行う。
------------------------------------	---

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇意識啓発 ②家庭への啓発や支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	人権・男女共生課						
実 施 事 業	事業No.	3103	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	男女共同参画に関する啓発	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	7-5-2					
	事業内容	家庭生活への男女の共同参画を促進するため、男女共同参画に関する啓発や講座を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	家庭生活への男女の共同参画を促進するため、男女共同参画に関する啓発や講座を実施します。					★	

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
男女共同参画に関する各種講座の参加人数	人	5,612	1,673	3,402	6,152		策定	9,000
							現在	9,000
できたこと(達成したこと)	第2次男女共同参画計画の基本目標に沿った形の講座を企画し、実施した。新型コロナウイルス感染症対策も緩和しつつ参加人数の拡大を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	講座によっては参加人数の確保に苦労したものがある。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	計画していた講座は概ね滞りなく実施することができたため。また、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に留意しつつ、参加人数の拡大を図ることができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	いばらきジェンダー平等プランの重点施策となっている項目について、受講意識が高まるような講座を実施する必要がある。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	いばらきジェンダー平等プラン(第3次男女共同参画計画)の基本目標や重点施策に沿った形で講座を立案し、実施していく。
------------------------------------	---



## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇意識啓発 ②家庭への啓発や支援

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	人権・男女共生課										
実施事業	事業No.	3104			ライフステージ						
	事業名	父親対象の子育て支援講座			妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	社会的 支援	ワーク・ ライフ ・ バランス	貧困 計画
	取組番号	7-5-1									
	事業内容	父親の育児参加を促進するために、父親と子どもが遊びを通してふれあう機会の提供や、育児や家事の知識や技術を身につける講座を実施します。									
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	父親の育児参加を促進するために、父親と子どもが遊びを通してふれあう機会の提供や、育児や家事の知識や技術を身につける講座を実施します。			★							

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する講座の開催回数と参加人数	回	8	7	11	13		策定	10
							現在	13
	人	113	416	128	160		策定	100
							現在	160
できたこと(達成したこと)	父親と子どもが料理を通じて触れ合いながら家事を学ぶ機会を作ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	日程・設備の都合上参加人数が限られること。							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	講座で学んだことを家庭で実践しやすい内容であることから、参加者の満足度、効果も高いため。
B		
活動目的を達成するための課題	食だけに限らず他の家事においても興味を持って受講していただけるものを立案する。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	年代を問わず男性の料理講座は人気が高いことから、講座数の増加や食以外の他の家事分野の講座に誘導できるような仕組みを考える必要がある。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇意識啓発 ②家庭への啓発や支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	人権・男女共生課						
実 施 事 業	事業No.	3105	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	女性の就労支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 著期	
	取組番号	7-5-1					
	事業内容	女性の職場復帰や再就職を支援します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	関係課と連携しながら、多様なライフスタイルを念頭においた女性の就労を支援する講座やセミナーを開催する。					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
女性活躍推進講座参加者数	人	17	15	10	17		策定	300
							現在	20
できたこと(達成したこと)	オンライン開催により、自宅から参加していただくことが可能となった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	オンライン開催限定となった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	今年度のテーマは直接的に就労に結びつくものではなかったが、金銭管理という観点からライフスタイルを考えることができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	庁内就労担当課との連携を図り、効果的な事業を立案する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	庁内相談担当課と役割分担を行い、実際の就労につながるような施策を検討していく。
------------------------------------	---

### ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇職場環境の改善に向けた支援

### ■計画【Plan】／実施事業

担当課	商工労政課						
実施事業	事業No.	3201	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	働きやすい職場づくりの推進	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	5-1-6					
	事業内容	勤労者の福祉の向上を図るため、ワーク・ライフ・バランスの推進や両立支援など働きやすい職場づくりに取り組む事業者に対する支援を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすい職場づくりに取り組む事業者の認定制度を実施する。</li> <li>広報誌・ホームページ等で制度周知や認定事業者の紹介を行う。</li> </ul>	★					

### ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
働きやすい職場づくり認定事業所数	事業所	5	5	9	6		策定	10
							現在	10
できたこと(達成したこと)	広報誌・ホームページ等で制度について周知し、働きやすい職場づくり推進事業所認定事業所を新たに6社増加することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	認定制度の効果的なインセンティブが整備できなかった。							

### ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	認定制度のインセンティブが、市ホームページ上での事業所のURL掲載や、正規雇用促進奨励金の優遇措置等、限定的なものにとどまったため。
B		
活動目的を達成するための課題	本事業が働きやすい職場環境推進の効果的な取組であるのかを検討する必要がある。	

### ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和5年度中に認定事業所の取組の紹介や、認定事業所が求人登録をしている場合は、求人票に認定事業所であることを掲載する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇職場環境の改善に向けた支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	人事課							
実施事業	事業No.	3202	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ・バランス 貧困計画	★
	事業名	特定事業主行動計画(第4期)の運用	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期		
	取組番号	7-3-2						
	事業内容	仕事と子育ての両立モデル職場となるよう、具体的な実施概要については、令和元(2019)年度に策定する、茨木市特定事業主行動計画(第4期)において、令和2(2020)年度から令和6(2024)年度までの5年間で取り組みます。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	新たに改定した茨木市特定事業主行動計画の第4期計画を計画的に推進し、目標達成を図る。							

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
月平均の時間外勤務数	時間	16.28	14.87	16.41	16.56		策定	16.49
							現在	16.49
年休取得促進(年平均)	日	11.4	12.8	12.2	12.7		策定	12.0
							現在	12.0
男性の育児休業取得促進	%	4.2	18.2	22.2	46.6		策定	10.0
							現在	10.0
できたこと(達成したこと)	年休取得促進、男性の育休促進の取組については目標値を上回った。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	時間外勤務の抑制については、コロナ対策等で時間外勤務が大幅に増加した所属があったため、目標値を達成できなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	目標数値に対して順調に推移しているものの、一部目標未達となったため。
B		
活動目的を達成するための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の育児休業取得率は、目標数値を大幅に超える結果となったが、年によって実績値の変動が大きく、安定的に率を伸ばしていく必要がある。</li> <li>・時間外勤務については、コロナ対応等により前年度よりも増加する結果となり、目標未達となった。災害時においては、全庁的な応援体制構築等により特定職員に負担が集中しないようにする等の配慮を要する。</li> </ul>	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	茨木市特定事業主行動計画の第4期計画の各取組みを計画的に進める。
------------------------------------	----------------------------------

### ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇子どもを産む・育てるための意識啓発

### ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課、子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	4101	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	児童福祉週間（5月5日～11日）の普及啓発	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	2-1-2					
	事業内容	児童福祉の理念の一層の周知と子どもを取り巻く諸問題に対する社会的関心の喚起を図るため、児童福祉週間の期間中に、ポスター等による広報活動や子育てに関する相談窓口を身近に感じてもらえるような取組を推進します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和6年度までに、より多くの市民に対し啓発を行う。		○	○	○	○	

### ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
広報誌による周知	回	1	1	1	1		策定	1
							現在	1
できたこと(達成したこと)	前年度と同様に、広報いばらき5月号やポスター掲示を行い、市民への周知に努めた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	広報誌掲載以外の方法での周知ができず、より多くの市民への啓発ができなかった。							

### ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	児童福祉週間について、市民への周知が十分とは言えないため。
C		
活動目的を達成するための課題	広報誌掲載はしているが、市民にとって身近なものになっていない。	

### ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	多くの市民に児童福祉週間の意義や目的をを知ってもらうとともに、市が実施している子育て関連の取組を周知するため、効果的な周知方法を検討していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇子どもを産む・育てるための意識啓発

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課、人権・男女共生課						
実施事業	事業No.	4102	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	子どもの権利に関する啓発・普及	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	7-4-2					
	事業内容	パンフレット・学習会の開催等を通じ、児童を含めた幅広い世代に向け「児童の権利に関する条約」の啓発・普及を実施します。また、SNSなどの周知方法も加え、より多くの市民に周知していきます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	令和6年度までに、より多くの市民に対し啓発を行う。		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標(子育て支援課)	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
児童の権利に関する条約の周知		-	-	-	-		策定	継続
							現在	継続
できたこと(達成したこと)	子育てハンドブックへの掲載や、子育て支援総合センターでのポスター掲示により、市民への周知に努めた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	上記以外の方法での周知ができず、より多くの市民への啓発ができなかった。							
活動指標(人権・男女共生課)	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子どもの権利について記載したカレンダーの作成・配布数	部	7,400	7,400	7,400	7,400		策定	7,400
							現在	7,400
できたこと(達成したこと)	市内の小学4年生にリーフレット、中学1年生にカレンダーを配布するとともに、各教室へ掲示してもらった。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	保護者や市民の皆さまへの周知等について、課題が残った。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	(人権・男女共生課) 1年を通して、身の回りの様々な人権課題に気づききっかけとなる情報を提供することができたため。
B		(子育て支援課) 多くの市民に認知されているとは言えないため。
活動目的を達成するための課題		(人権・男女共生課) 引き続き、用語や掲載情報について見直していく必要がある。 (子育て支援課) 掲載・掲示以外の周知方法を検討する必要がある。

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	(人権・男女共生課) わかりやすい表現を意識するとともに、必要に応じて新しいテーマを取り入れた情報内容とする。 (子育て支援課) SNSなどの周知方法を加え、より多くの市民への周知をするとともに、子ども自身の働きかけを検討し、子どもへの自覚を促す仕組みづくりを検討する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇子どもを産む・育てるための意識啓発

■計画【Plan】／実施事業

担当課	市民生活相談課						
実施事業	事業No.	4103	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	次なる茨木ミーティング (旧：次代を担う若者世代との未来ミーティング)	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	7-7-4					
	事業内容	若者世代が市政に関する意見を発言できる場を設け、理解や関心を深めてもらうとともに、若者世代の意見を市政にいかしていきます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	手法を工夫しながら、引続きミーティングを実施する。	○					○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
次なる茨木ミーティング開催回数	回	3	1	3	2		策定	3
							現在	2
できたこと(達成したこと)	市長への理解や関心を深めてもらうことができた。また、ミーティングで出た意見を反映することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	市長への理解や関心を深めてもらうことができた。また、ミーティングで出た意見を反映することができた。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	市長と直接意見交換することにより、市政への理解や関心を深めてもらうことができた。また、若者世代の意見を市政に反映することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	市長と直接意見交換することにより、市政への理解や関心を深めてもらうことができた。また、若者世代の意見を市政に反映することができた。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	若者世代にとって関心の高いテーマを選ぶとともに、テーマ担当課と連携し、ミーティングで出された提案の実現に努めていく。
------------------------------------	--

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇支援ネットワークの充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担当課	福祉総合相談課								
実施事業	事業No.	4201	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画		
	事業名	包括的支援体制の推進	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期			
	取組番号	1-1-2							
	事業内容	住民がより身近な地域で相談できるように、コミュニティソーシャルワーカー、障害者相談支援センター、地域包括支援センターを14のエリアごとに整備するとともに、圏域ごとにエリアをとりまとめる地区保健福祉センターを整備します。							
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和5年度までに地域包括支援センターを14エリアに設置。現在12か所設置済。R4:2か所増設予定。 地区保健福祉センターを5圏域に設置。 現在1か所(東)設置済。R4:2か所(西、南)、R5:1か所(中央)、R6以降:1か所(北)設置予定。						○	○	★

## ■実施【Do】

〈評価 A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
地域包括支援センター	か所	11	11	12	14		策定	14
							現在	14
いきいきネット相談支援センター	か所	14	14	14	14		策定	14
							現在	14
障害者相談支援センター	か所	10	10	10	10		策定	14
							現在	14
地区保健福祉センター	か所	0	0	1	3		策定	5
							現在	5
できたこと(達成したこと)	地区保健福祉センターを計画通り設置できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	無し							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	計画通りに包括的支援体制が推進されているため。
A		
活動目的を達成するための課題	北保健福祉センターの設置場所が未定であるため、設置場所を確定させ、設置準備を行う。	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	さらに包括的支援体制を推進するため、計画に沿った地区保健福祉センターを設置していく。
------------------------------------	--



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇支援ネットワークの充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	4202	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育て支援団体のネットワーク化	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-2-2					
	事業内容	子育て支援総合センター及び公立保育所を中心に、地域における子育て支援活動団体等のネットワーク化を推進します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	身近な地域で子育てを支えるため、地域子育て団体と連携を図り、地域ごとの子育て支援マップを作成するなど、地域情報の共有・発信と団体間の交流を図る。				○	★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
連絡会開催回数	回	28	0	0	10		策定	20
							現在	10
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン形式で開催し、交流及び情報提供を行うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染対策をしつつ実施し、地域子育て団体と連携を強化できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	情勢を踏まえつつ、対面での情報共有や交流の場の創出も検討し、引き続き地域子育て団体と連携を強化する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇支援ネットワークの充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	4203	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育てサークル・グループ支援	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	2-2-3					
	事業内容	保護者等で構成される子育てサークルやグループ及び各種子育て支援団体等を対象に、子育てサポーターの派遣やおもちゃの貸し出し等を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸し出しを希望するグループや個人に対し、おもちゃを貸し出す。</li> <li>派遣を希望するグループに対し、子育てサポーターを派遣する。</li> </ul>		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
サポーター派遣件数	件	51	32	19	40		策定	60
							現在	40
おもちゃの貸出件数	件	76	18	61	79		策定	100
							現在	79
できたこと(達成したこと)	令和3年度は中止していた子育てサロンを再開したことで、子育てサポーター派遣の件数が増加した。 コロナ禍に対応するため、グループだけでなく個人にもおもちゃの貸出を実施し、前年度に比べて貸出件数が増加した。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	おもちゃの貸出、サポーターの派遣について、すべての依頼に対応することができ、おもちゃの貸出について、前年度に比べ貸出件数が増加し、十分なニーズに応えることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き市民ニーズを捉え、実施していく。
------------------------------------	----------------------

## ■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇支援ネットワークの充実

## ■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	4204	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育て支援の人材育成	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	取組番号	2-2-3					
	事業内容	地域における子育て支援活動の活性化を図るために、それぞれの特徴に合わせた人材を育成する研修を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子育て支援に携わる方を対象に、スキルアップを図ることができるような内容の件数を実施する。 コロナ禍に対応して、オンラインでの研修を取り入れる。		○				

## ■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
地域子育て支援者研修実施回数	回	-	21	21	19		策定	継続
							現在	継続
参加者数	人	-	532	460	460		策定	継続
							現在	継続
できたこと(達成したこと)	子育て支援に必要な情報を幅広く、支援者に伝えることができ、オンラインも取り入れ、コロナ禍であっても参加しやすい環境を整えた。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし							

## ■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	子育て支援に必要な情報を幅広く、支援者に伝えることができ、オンラインも取り入れ、コロナ禍であっても参加しやすい環境を整え、アンケートでの評価も概ね満足のいくものであるとの回答であったため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし	

## ■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	情勢を踏まえつつ、引き続き適切に実施していく。
------------------------------------	-------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇支援ネットワークの充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	地域福祉課						
実 施 事 業	事業No.	4205	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	民生委員・児童委員・地区福祉委員会の活動支援	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	1-1-1					
	事業内容	民生委員・児童委員、主任児童委員が地域の最も身近な相談相手であることを市民に更に周知するとともに、様々な相談に応じることができるよう、研修の実施や情報提供を行うなど、安心して活動できるよう支援を行います。また、地区福祉委員会の活動を支援します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	地域の身近な相談相手として民生委員・児童委員、主任児童委員への相談件数の増加を目指します。	○					○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
民生委員・児童委員、主任児童委員による児童に関する相談・支援件数	件	2,935	2,225	2,553	2,391		策定	3,300
							現在	3,300
できたこと(達成したこと)	コロナ禍においても、感染拡大防止に留意しながら相談・支援活動を継続できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍の影響により、民生委員活動を周知できる機会が減少している。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	民生委員・児童委員、主任児童委員への相談件数は増加こそしていないが、一定数は存在したため。
B		
活動目的を達成するための課題	民生委員・児童委員、主任児童委員が最も身近な相談相手であることを市民に更に周知していく。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	民生委員活動の周知を進め、相談件数の増加を目指す。
------------------------------------	---------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	道路課						
実施事業	事業No.	4301	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	道路（歩道）の整備	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	取組番号	5-5-5					
	事業内容	通学路や生活道路において、歩車分離を図り、歩行者の安全を確保するとともに、子育て中の親子や高齢者、障害者が安全かつ円滑に移動できるよう歩道の段差解消や改良を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	歩道の段差解消工事等を実施。			○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
歩道改良工事の実施	m	100	111	193	226		策定	100
							現在	100
できたこと(達成したこと)	学校周辺において歩道整備を実施したことにより、歩行者の安全を確保できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	例年多数の要望が寄せられるため、整備までに時間を要することがある。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	歩行者の安全を確保するための工事ができているため。
A		
活動目的を達成するための課題	周辺住民の事業に対する理解・協力	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	事業の費用対効果を精査の上、順次整備を進めるとともに、周辺住民への丁寧な説明を心掛ける。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	公園緑地課						
実施事業	事業No.	4302	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	公園等の整備及び維持補修	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	5-3-2					
	事業内容	身近な憩いやレクリエーションの場として、子どもや子ども連れが利用しやすい公園等の整備及び維持補修を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	令和6年度まで公園の再整備工事を3~5箇所(年)実施する。		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
遊具の更新・設置を行った公園数	箇所	5	4	3	4		策定	3~5
							現在	3~5
できたこと(達成したこと)	遊具やその他の公園施設を更新、設置したことにより、公園利用者の増加が図れた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	公園利用者が増加したため。
A		
活動目的を達成するための課題	公園利用者の要望は多岐にわたるため、要望の集約は難しい。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	地元自治会等と協議を行い、地域ニーズに合致した公園づくりを進める。
------------------------------------	-----------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	交通政策課						
実施事業	事業No.	4303	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	交通安全啓発・指導	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	5-5-5					
	事業内容	交通安全教室を市内の幼稚園や保育所、小・中・高等学校で実施します。また、体験型の教室を実施するほか、自転車乗車時におけるヘルメット着用の推進等に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度までに交通安全教室を125回開催する。</li> <li>・開催回数の増を図るため、各施設のニーズ(実地指導・リモートによる指導)に応じた交通安全教室を実施する。</li> </ul>		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
交通安全教室の実施(回数、参加者)	回	136	96	111	120		策定	120
							現在	125
	人	37,652	28,980	35,267	35,921		策定	37,000
							現在	37,000
できたこと(達成したこと)	令和3年度まで新型コロナウイルス感染症の影響により行えなかった実地指導について、令和4年度から希望する幼稚園・保育園、小学校において再開することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	中・高等学校についてはリモートによる指導を続けている。高等学校からの指導希望が少なかつたため、当事業の重要性について引き続き周知し、指導件数の増加を図る。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実地指導とリモートによる指導を併用し、各施設の事情に合わせた交通安全教室の開催に努めたため。</li> <li>・交通安全教室について案内をしたが、開催に至らない施設があつたため。</li> </ul>
B		
活動目的を達成するための課題	開催を希望しない施設について、当事業の重要性について理解し、前向きに開催を検討いただけるよう、アプローチの仕方を工夫する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	当事業への理解と重要性について、引き続き周知する。
------------------------------------	---------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	危機管理課						
実 施 事 業	事業No.	4304	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	防犯に関する広報・啓発	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	4-3-2					
	事業内容	子どもが安全に暮らせる地域づくりのために、警察や関係団体、地域住民と連携した防犯に関する広報・啓発を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>茨木警察署主催の市役所内での防犯啓発イベントへの支援</li> <li>茨木防犯協会へ青色防犯パトロール車等の貸与を行い、防犯活動への支援</li> </ul>		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
警察や関係団体と連携した啓発行事の実施	回	—	1	2	1		策定	2
							現在	2
防犯協会への青色防犯パトロール車の貸与	台	6	6	6	6		策定	6
							現在	6
できたこと(達成したこと)	防犯協会活動の支援や防犯協会及び茨木警察署との連携した防犯啓発に関する取組、地域による青色防犯パトロール活動の支援を行うことにより、本市の犯罪件数の減少につながっている。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	茨木防犯協会・茨木警察と連携し防犯に関する広報・啓発を支援することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	防犯協会の会員が高齢化し、青色防犯パトロール活動の担い手が今後不足していくことが懸念されている。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	防犯協会を通して地域の防犯活動を支援し、防犯パトロール活動に必要な車両の整備、更新を年次的に進めていく。 また、パトロール活動の担い手については、防犯協会と連携して、各種団体等に活動の周知を行い、加入を促す。
------------------------------------	---



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	危機管理課						
実施事業	事業No.	4305	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	防犯カメラ設置補助	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	4-3-1					
	事業内容	屋外の公共空間で発生する子どもや女性への犯罪の抑止を図るため、防犯カメラを設置する自治会等に対し、補助金を交付します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会等が防犯カメラを設置する際に設置費用を補助</li> <li>令和3年度から令和7年度までは設置費用の3/4(上限15万円)を補助</li> </ul>		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
防犯カメラ設置事業補助金	台	14	11	19	18		策定	20
							現在	20
刑法犯認知件数(1月から12月)	件	1,700	1,466	1,367	1,583		策定	1,000
							現在	1,000
できたこと(達成したこと)	防犯カメラ設置補助制度を活用して、自治会により新たに18台の防犯カメラが設置された。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	令和3年度から補助額・補助率の拡充を行い、また、手引きをわかりやすく改定し、自治会等への進捗確認や関係機関等へご案内するなどの負担軽減を図った結果、多くの自治会等が円滑に手続きを完了し、防犯カメラを設置できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	本補助金を活用してもらうため、引き続き、自治会等の負担軽減を図る必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	申請の手続きの周知や、申請にあたって庁内関係課、関係機関との連携を図るなど、自治会等の負担軽減につながる簡素化、効率化に努める。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	危機管理課						
実施事業	事業No.	4306	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	啓発冊子（防災ハンドブック）作成配布	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	取組番号	4-1-2					
	事業内容	女性や子ども、高齢者、障害者、外国人等の多様な主体に配慮した防災ハンドブックを作成配布し、市民一人ひとりの防災意識の向上を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市外からの転入者に対して配布</li> <li>・出前講座や防災訓練等の機会を通じて、配布・周知を実施</li> <li>・冊子の増刷に伴い、適宜記載内容の見直しを実施（1～2年に1回）</li> </ul>		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
防災ハンドブック増刷	千円	632	869	605	—		策定	状況に応じて印刷
							現在	状況に応じて印刷
	冊	10,000	15,000	10,000	—		策定	状況に応じて印刷
							現在	状況に応じて印刷
できたこと(達成したこと)	—							
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民参加型の防災訓練の実施地区が少なく、周知機会が減少したため、十分に配布・周知ができなかった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症の影響により、訓練等の市民を対象とした行事が少なく、周知機会が減少したため。
B		
活動目的を達成するための課題	市民の防災意識の向上に繋がられるよう、多様な広報媒体を用いて、防災ハンドブックの周知・啓発に努める。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	防災と深い関わりのある日（大阪北部地震の発災日、防災の日）等に、市広報誌やホームページ・SNS を活用して、定期的に市民に対して防災意識の啓発を実施していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課									
実施事業	事業No.	4307	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画				
	事業名	児童・生徒の安全対策	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期					青年・ 若者期
	取組番号	2-3-4								
	事業内容	市内小学校児童の安全な通学のために、子どもの安全見守り隊による見守り活動、通学路の安全点検などの取組を通して子どもを見守るネットワーク作りを推進します。								
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子どもの登下校時の見守り（防犯・交通安全の観点より） 通学路の安全対策の充実									

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子どもの安全見守り隊	人	1,221	1,176	1,191	1,100		策定	1,081
							現在	1,300
できたこと(達成したこと)	子どもの安全見守り隊の活動に交付金を給付し支援することにより適切に推進することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	年々、安全見守り隊の数が減少傾向にあり、人員の確保が課題。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	子どもの登下校を見守る人員の確保が難しいため。
B		
活動目的を達成するための課題	引き続き、見守り人員募集について、周知していく。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和5年度に出てきた通学路安全対策要望から危険な場所を把握し、関係課と連携して危険箇所を減らしていくとともに、見守り人員についても引き続き周知する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	生活福祉課										
実施事業	事業No.	5001			ライフステージ						
	事業名	生活保護世帯に対する教育扶助の支給			妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	社会的 支援	ワーク・ ライフ ・ バランス	貧困 計画
	取組番号	1-4-1									
	事業内容	生活保護受給者において、教育扶助が必要な場合に支給します。									
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	月々の生活保護費に加え、必要に応じて国の基準に基づき、教育扶助費を認定し、支給する。			★							

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
生活保護世帯において、教育扶助が必要な場合に実施。	世帯	121	97	99	106		策定	-
							現在	設定なし
できたこと(達成したこと)	生活保護世帯において、教育扶助が必要な場合に支給した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	生活保護世帯に対して、教育扶助を適切に支給することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、生活保護世帯に対する教育扶助を必要に応じ適切に支給していく。
------------------------------------	-------------------------------------

教育扶助：学用品費、教材代、給食費等の義務教育に必要な費用

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	生活福祉課									
実施事業	事業No.	5002			ライフステージ					
	事業名	生活保護世帯の高校生に対する生業扶助の支給			妊娠・出産期	就学前期	小中学校期			
	取組番号	1-4-1						青年・若者期	社会的支援	ワーク・ライフ・バランス
	事業内容	生活保護受給者において、高校生の生業扶助が必要な場合に支給します。								
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	月々の生活保護費に加え、必要に応じて国の基準に基づく生業扶助費を認定し、支給する。									

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
生活保護世帯において、高校生の生業扶助が必要な場合に支給	世帯	54	57	55	54		策定	-
							現在	設定なし
できたこと(達成したこと)	生活保護世帯において、生業扶助が必要な場合に支給した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	生活保護世帯に対して、生業扶助を適切に支給することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、生活保護世帯に対する生業扶助を必要に応じ適切に支給していく。
------------------------------------	-------------------------------------

生業扶助：高校就学費用（入学費、教材代、クラブ活動費等）

生業に必要な資金・器具・資材及び技能習得費用等

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課									
実施事業	事業No.	5003			ライフステージ					
	事業名	ゆめ実現支援事業			妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期			
	取組番号	2-3-4						青年・ 若者期	社会的 支援	ワーク・ ライフ ・ バランス
	事業内容	奨学金に関する説明会や個別相談会の実施、奨学金冊子の配布を通して、きめ細かく奨学金に関する情報提供を行います。								
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、広報やHPに説明会や相談事業の周知。</li> <li>中学校3年生へ(夢を実現する奨学金)冊子の配付。</li> </ul>									

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
奨学金個別相談(延べ件数)	件数	242	180	226	246		策定	240
							現在	250
奨学金個別相談(新規相談件数)	新規相談件数	163	134	146	152		策定	150
							現在	230
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間21回の説明会を実施し奨学金に関する情報提供を行った。</li> <li>個別相談会を実施した。</li> <li>奨学金の冊子を作成し配付した。</li> </ul>							
できなかったこと(達成できなかったこと)	家庭の状況が変わることで急遽奨学金が必要になるケースがあり、その時点では対応が間に合わない。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	説明会や情報提供、個別相談は実施できたが、本当に必要な方に情報が届いているのか、更なる周知が必要であるため。
B		
活動目的を達成するための課題	引き続き、広報やHPに説明会や相談事業の周知。中学校3年生へ(夢を実現する奨学金)冊子を配付する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、広報やHPに説明会や相談事業の周知。中学校3年生へ(夢を実現する奨学金)冊子を配付する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	福祉総合相談課						
実 施 事 業	事業No.	5004	ライフステージ				社会的支援 WLB 貧困計画
	事業名	生活困窮者自立支援事業	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	1-4-2					
	事業内容	経済的に困窮している方(世帯)のみならず、複合的な課題を抱え困っている方(世帯)に対して、対象者とともに自立に向けた具体的なプランを作成し、関係機関との連携を図りながら、伴走型の支援を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>来談者が自身で困りを解消できるよう伴奏型の支援を実施(継続)</li> <li>来庁が困難な対象者に対し、アウトリーチによる継続支援を実施(継続)</li> </ul>						

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
①相談受付件数	人	459	2,039	1,155	1,114		策定	538
							現在	600
②相談実績(支援実績延べ回数)	回	4,206	6,471	6,434	5,726		策定	4,117
							現在	6,000
できたこと(達成したこと)	目標値を大きく上回る新規相談受付、支援を実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	各対象者に一定の時間をかけた伴走型の支援が不十分であった。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	活動指標において目標値を大きく超えて達成したため。また、コロナの影響により、生活困窮に関する相談ニーズが増大したが、それを受け止め、必要とされる支援を実施することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	<p>コロナの影響で相談受付件数が増大した分、伴走型の支援が不十分なケースが生じている。</p> <p>また、複雑・複合化した課題の相談があるため、自立支援機関の支援に限らず、他機関等へつなぐ必要がある。</p>	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	日々の相談支援において、他機関・地域等と協力・連携しながら支援を実施する。
------------------------------------	---------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	人権・男女共生課						
実施事業	事業No.	5005	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	いのち・愛・ゆめセンター総合相談	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	7-4-2					
	事業内容	生活全般に係る課題に応じ、関係機関と連携した包括的・継続的な助言・指導を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	相談事業の周知・広報を引き続き行う。 関係課、関係機関との連携促進に向け、担当者間の連絡・情報共有を一層進める。					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
総合相談件数	件	1,774	2,182	1,522	1,351		策定	-
							現在	1,500
できたこと(達成したこと)	学習会・子ども食堂等につなぎ、見守り活動を拡充できた。また、コロナ禍が少し落ち着き、来所相談が増えたおかげで長期・複雑化したケースが一部解決に向けて進展した。また、継続相談を安定して行うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	センターに相談に来られない人へのアウトリーチ手法について、更に検討する必要がある。また、コロナ禍におけるつながり機能の低下により新規相談の掘り起こしを積極的に行う必要がある。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍が少し落ち着いたことで、継続相談については安定して行うことができた一方、関係が途絶えたケースの復旧や新規相談の掘り起こしが弱いため。
B		
活動目的を達成するための課題	関係が途絶えたケースの復旧や新規相談の掘り起こしを積極的に行う必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	館だよりやホームページ等への掲載に加え、地域で実施されている様々なイベントや活動等に積極的に参加し、相談業務の周知を行うとともに、コミュニケーションにより相談者の掘り起こしを行う。
------------------------------------	--



■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	生活福祉課										
実施事業	事業No.	5006			ライフステージ						
	事業名	生活保護世帯に対する健康管理支援			妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会的支援	ワーク・ライフ・バランス	貧困計画
	取組番号	1-4-1									
	事業内容	生活保護受給者において、健康管理支援が必要な場合に実施します。									
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子ども・若者がいる生活保護世帯において、健康管理支援が必要な場合に実施する。										

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
生活保護世帯において、健康管理支援が必要な場合に実施。	人	62	63	109	76		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	子ども・若者がいる生活保護世帯において、必要に応じて健康管理支援を実施した。また、令和4年度は新たにケースワーカーを中心に小・中学生のいる世帯に子どもの生活に関するアンケートを実施し支援の必要性を確認した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	支援が必要な対象者の掘り起こしをアンケートという共通の指標を用いて行うことができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	健康に関心のない世帯が多く、支援を希望されない場合や、助言指導を行っても効果が見られないことがある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、ケースワーカーと連携しながら必要に応じて健康管理支援を行う。
------------------------------------	-------------------------------------

健康管理支援：

生活保護受給者の健康や受診に関する相談等に対し、保健師等が助言指導等を行い、生活保護受給者自ら健康の保持・増進に努められるよう支援を行うこと。

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	生活福祉課										
実施事業	事業No.	5007			ライフステージ						
	事業名	生活保護世帯の子どもと養育者に対する食育支援の実施			妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会的支援	ワーク・ライフ・バランス	貧困計画
	取組番号	1-4-1									
	事業内容	生活保護世帯の子ども（小学生～高校生）とその養育者を対象に、健康教育（調理実習を含む）を実施し、子どもたちがバランスの良い食事について理解し、調理する力をつけ、将来生活習慣病になることを予防します。									
計画内容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	生活保護世帯の子ども（小学生～高校生）を対象に、地域での健康教育（調理実習を含む）を年9回実施する。			★							

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
生活保護世帯において、食育支援が必要な場合に実施。	人 (延)	調理 33	訪問 11 調理 25	訪問 6 調理 15	調理 17		策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	健康教育（調理実習を含む）を実施することで、料理や食事に関心を持つ子どもが増えた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症による参加予定者の体調不良等で健康教育（調理実習を含む）を4回中止した。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、予定回数を実施することができなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	養育者の食育への関心が低く、健康教育（調理実習を含む）の参加率が低い。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和5年度は地域で3回健康教育（調理実習を含む）を行う予定であり、ケースワーカーと連携しながら実施していく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課										
実施事業	事業No.	5008			ライフステージ						
	事業名	こども食堂への支援			妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	社会的 支援	ワーク・ ライフ ・ バランス	貧困 計画
	取組番号	2-5-2									
	事業内容	子どもに家庭的な雰囲気のある食事と学習や交流の場を提供する団体を支援します。									
計画内容 (具体的な活動計画を簡潔書きで記述)	子どもに家庭的な雰囲気のある食事並びに学習及び交流の場を提供するこども食堂を運営する事業に対し、今後も継続して報償金を交付する。			★							

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
こども食堂のか所数	か所	17	16	16	17		策定	20
							現在	20
できたこと(達成したこと)	こども食堂開催に係る報償金の支給が各こども食堂の持続的な運営の一助となり、寄付で賄うことができない経費に充てることができている。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	大阪府からのお米券・お肉券等の支援事業や、市民・市内事業者からの寄付の窓口となり、各こども食堂の運営の大きな一助となっているため。
A		
活動目的を達成するための課題	こども食堂はボランティアの協力や食材の寄付をもって運営していることから、財政的に厳しい状況である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	市民からこども食堂へ、気軽に寄付ができる仕組みを望む意見があったことから、令和5年度に新たな寄付システムの構築を図る。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	福祉総合相談課										
実施事業	事業No.	5009			ライフステージ						
	事業名	生活困窮者自立支援事業における就労支援			妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	社会的 支援	ワーク・ ライフ ・ バランス	貧困 計画
	取組番号	1-4-2									
	事業内容	ハローワークと連携を図り、就職活動に不安や課題のある方に対して就労支援を行います。									
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	就労を希望する対象者に対し、ハローワークの担当ナビゲーターと協力して支援を実施する(継続)。			★							

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
就労支援対象者数	人	93	103	98	80		策定	162
							現在	100
できたこと(達成したこと)	就労を希望する方に対し、必要な支援を実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	就労支援対象者数が目標値を下回った。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	一定の就労支援は実施したものの、コロナにより新規相談件数が増大したことにより、十分な就労支援を実施できなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	自立相談支援機関の人員にも限りがあり、時間をかけた就労支援のためには、他機関等との連携により支援の役割分担が必要。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	日々の相談支援において、他機関・地域等と協力・連携しながら支援を実施する。
------------------------------------	---------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	福祉総合相談課										
実施事業	事業No.	5010			ライフステージ						
	事業名	生活困窮者自立支援事業における就労準備支援			妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	社会的 支援	ワーク・ ライフ ・ バランス	貧困 計画
	取組番号	1-4-2									
	事業内容	庁内職場実習やスマイルオフィスでの支援を通して、就労意欲と作業スキルの向上を図りながら、就労に向けて段階的な支援を行います。									
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内職場実習においては、年間40名、計200日程度の実習受け入れ（継続）</li> <li>・ スマイルオフィスにおいては、年間で10名を年度任用職員として6か月間雇用（令和5年度から2人採用分予算拡充）</li> </ul>										

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
庁内職場実習利用者数	人	31	22	35	32		策定	60
							現在	40
スマイルオフィス利用者数	人	10	9	8	9		策定	10
							現在	10
できたこと(達成したこと)	庁内実習希望者に対し、就労体験の機会を提供した。スマイルオフィス雇用後、障害者雇用や事業所等に就職・就業することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	庁内実習の利用者数が目標値を下回った。							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	庁内職場実習利用者数は目標値を下回ったが、必要とする方に就労に向けた準備支援を提供できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	庁内職場実習利用者の適性等を十分に把握する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	庁内職場実習希望者の適性等と庁内職場実習希望課の業務内容を確認・調整し、できる限り庁内実習の機会を提供する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園事業課										
実施事業	事業No.	5011			ライフステージ						
	事業名	非婚のひとり親世帯における「みなし寡婦（夫）控除」の適用			妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	社会的支援	ワーク・ライフ・バランス	貧困計画
	取組番号	1-4-2									
	事業内容	利用者負担額について「みなし寡婦（夫）控除」を適用することにより、非婚のひとり親世帯の経済的負担の軽減を図ります。									
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	令和3年度の市民税から「ひとり親控除」が創設されたことに伴い、令和3年9月分以降の利用者負担額をもって、「みなし寡婦（夫）控除」の制度を廃止とした。			○							

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
みなし寡婦（夫）の適用件数、適用人数	件	7	4	2	-	-	策定	-
							現在	-
	人	7	4	2	-	-	策定	-
							現在	-
できたこと(達成したこと)	特になし							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	税制改正のため廃止され、令和4年度は実施がないため。
-		
活動目的を達成するための課題	特になし	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	税制改正のため廃止
------------------------------------	-----------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	5012	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	大学奨学金利子補給	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	取組番号	2-5-3					
	事業内容	市民が大学等を卒業した後に抱える奨学金返済の負担を軽減し、若者の市内への流入と定住促進を図るため、奨学金の利子相当額（上限2万円）を10年間給付します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	市民への周知等を含め、適正な事務執行に努める。					○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
大学奨学金利子補給事業 ① 新規受給者数	人	173	166	149	91		策定	200
							現在	200
② 継続受給者数	人	451	527	598	623		策定	1,200
							現在	1,200
③ 継続受給率	%	82.1	91.6	78.9	75.6		策定	75
							現在	80
できたこと(達成したこと)	大学奨学金利子補給対象者へのアンケート結果では、利子補給を受けることによって、茨木市への定住意向率が上昇している。(95.3%→96.2%) 事務の適正化を図るため、データの運用・管理を現状のエクセルからアクセスに移行させる作業を行った。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	新規申請者が昨年度より減少している。(217人→169人)							

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	申請者は減少したが、適切にサービス提供することができ、継続利用者のアンケート結果では定住意向率が上昇したため。
B		
活動目的を達成するための課題	事務の適正化を図るために移行させたアクセスのシステムが当該年度中に完成しなかったことから来年度本格稼働させることになる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	R5年度にアクセスを正確に運用できるよう、担当職員がアクセス講習会を受講するなど自己研鑽に励み、スキルアップを図る。
------------------------------------	--

